



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

平成26年度 総集編

1. 特集記事

テーマ別クラブ運営事例集

- 1 地域の大学と連携しているクラブ
- 2 活動資金を寄付や協賛により上手に集めているクラブ
- 3 クラブ内研修を行っているクラブ
- 4 指定管理者制度を生かそう
- 5 クラブの運営業務を分担しよう
- 6 専従スタッフを継続して確保しているクラブ
- 7 学校部活動と連携しているクラブ



スポーツ振興くじ助成事業



公益財団法人

日本体育協会

INDEX

1. 特集記事

(1) 地域の大学と連携しているクラブ [第104号 (平成26年6月20日発行)]

善行大越スポーツクラブ (神奈川県藤沢市)	3
みはまスポーツクラブ (愛知県知多郡)	5
特定非営利活動法人 長野総合スポーツクラブ (大阪府河内長野市)	7

(2) 活動資金を寄付や協賛により上手に集めているクラブ [第105号 (平成26年7月22日発行)]

肥前いろはクラブ (佐賀県唐津市)	9
ふじみ野ふぁいぶるクラブ (埼玉県ふじみ野市)	11

(3) クラブ内研修を行っているクラブ [第106号 (平成26年8月20日発行)]

吉野スポーツクラブ (奈良県吉野郡吉野町)	13
青山スポーツクラブ (愛知県半田市)	16
みやまスポーツクラブ (京都府南丹市)	18

(4) 指定管理者制度を生かそう [第107号 (平成26年9月22日発行)]

NPO法人WillDo (ウィルドゥ) (長崎県佐世保市)	20
NPO法人川西スポーツクラブ (奈良県磯城郡)	22
大曲スポーツクラブ (秋田県大仙市)	24

(5) クラブの運營業務を分担しよう [第108号 (平成26年10月20日発行)]

どんぐりクラブ屋台村 (広島県山県郡)	26
さらスポーツクラブ (香川県高松市)	28
しまもとバンブークラブ (大阪府三島郡島本町)	30

(6) 専従スタッフを継続して確保しているクラブ [第109号 (平成26年11月20日発行)]

NPO法人まつぞのスポーツクラブ (岩手県盛岡市)	33
みなと小松島スポーツクラブ (徳島県小松島市)	35
NPO法人美咲町柵原星の里スポレク倶楽部 (岡山県久米郡美咲町)	37

(7) 学校部活動と連携しているクラブ [第110号 (平成26年12月22日発行)]

NPO法人しおやユリピーススポーツクラブ (栃木県塩谷郡塩谷町)	40
NPO法人宮城スポーツクラブ (群馬県前橋市)	42
NPO法人いいの夢クラブ (宮崎県えびの市)	44

地域の大学と連携しているクラブ

学生と一緒に作る「トランポリンの街」

～善行大越スポーツクラブ～

トランポリン教室をクラブの中心事業として活動する「善行大越スポーツクラブ」は、設立当初より地域の大学生や大学院生を、クラブ運営に積極的に受け入れる体制をとっています。学生が参加するようになったキッカケや、学生と連携することでクラブ側と学生側、それぞれにどういった利点があるのかなどに注目しました。

🔑 4つのキーポイント

- ① クラブ設立のキッカケ
- ② 立ち上げから学生が活躍
- ③ 学生に学習・研究の機会を提供
- ④ 自然と学生が集まるクラブ

1 クラブ設立のキッカケ

○自治体の活動からクラブを立ち上げ

善行大越スポーツクラブの前身は、市の助成金と一般家庭からの会費で運営する善行・大越地区社会体育振興協議会でした。主に、地区の運動会やママさんバレー、バドミントン教室を無料で開催していましたが、当時の協議会の中心人物でもあった櫻中勝信さん(クラブマネジャー)が総合型クラブの存在を知り、受益者負担制度の運営を考えたことがクラブ立ち上げの発端となりました。

その後、平成18年に同クラブを設立し、善行地区の青少年指導員であった田代明美さん(アシスタントマネジャー)とともにトランポリン教室をスタートしました。

2 立ち上げから学生が活躍

○2人のキーパーソン(田中正男さんと松橋崇史さん)

一方、当時、慶應義塾大学大学院の湘南藤沢キャンパス(以下、SFC)に通っていた松橋崇史さん(設立監事)は、地域の人々と学生がスポーツを通じて触れ合う機会を作りたいと、同大学の体育会の学生によるスポーツ教室を開催していました。かねてより、地域での学生という人材活用に興味があった藤沢市スポーツ推進課長(当時)である田中正男さんが、その活動に感心し、櫻中さんの考える総合型クラブの立ち上げについて松橋さんに相談したことから学生がクラブづくりに関わるようになります。

3 学生に学習・研究の機会を提供

○クラブ側から見たメリットとは

学生がクラブの運営に関わることにに対し、櫻中さんは「私たちのクラブは学生の力があってこそ運営できたと思っています。学生は、もともと我々の活動に興味があるため率先してアイデアを出し動いてくれます。学生が窓口となり、慶應義塾大学スキー部の学生によるノルディックウォーキングのイベントや国内のトップアスリートを招聘した特別教室も実現しました」とその活躍ぶりを語ります。

現在は、2名の学生がクラブをサポートしており「本当に少ない金額の謝礼をお渡ししていますが、クラブを手伝うのは「お金のためではない」と言ってくれるので非常に助かっています。クラブ側にとって、高いモチベーションで豊富な労働力のある優秀な人材を低コストで確保できるというメリットは大きいです」とも言います。

○学生側から見たメリットとは

現在、SFCに通いながらクラブをサポートしてきた斎藤和真さんは、クラブ運営に関わることで「地域スポーツが抱える問題を実践的に学べることは、非常にいい経験になっています」と話しています。また、「地域スポーツ

が、本当にその地域に住む人たちに支えられて成り立っていることに驚きました」とも言い、そういったことを知り、今では、研究のためよりも、自分も一員となって地域スポーツを推進する人たちを支えたいという思いが強くなっていると話します。

4 自然と学生が集まるクラブ

○「卒業」も新たな活性につなげる

当然、学生は卒業と同時にクラブから離れてしまうという懸念もあります。しかし、クラブ設立からの8年間、学生のサポートが途切れることはありませんでした。あくまで学生の興味・関心がクラブへのサポートにつながっています。クラブの事業自体が発展し、常に「面白いこと」をしていれば、社会的にも注目され、学生も自ずとここで学びたいと思ってくれると考えています。また、一定のサイクルで新たな人材を迎えることは、クラブを常に活性化させるカンフル剤になるという意味で、必ずしもデメリットではありません。

○トランポリンの街、善行へ

現在は、地域の小・中学校の体育館を借りてほとんどの教室を開催しています。そのため、卒業式や入学式の時期など、学校側が体育館を使用する場合は活動ができません。根本的な解決策として、クラブ専用の体育館を設立したいと考えています。

また、平成21年に開始したトランポリン教室がクラブ事業の中心となり、最近では地元の小学校でトランポリンを授業に取り入れるという話も出るようになりました。トランポリンの出張授業というアイデアもあり、地域全体で「トランポリンの街」に向け、地域スポーツの活性に貢献したいと思っています。

(善行大越スポーツクラブ クラブマネージャー 櫻中勝信)

クラブプロフィール

設 立：平成18年2月
 地 域：神奈川県藤沢市善行地区
 運 営：会員数438名
 予算規模：約1460万円(内、平成26年度toto助成金216万円)
 連絡先：非営利型一般社団法人 善行大越スポーツクラブ
 〒251-0877 神奈川県藤沢市善行団地6-1
 善行小学校西門
 T E L：0466-77-5345
 F A X：0466-77-5345
 E-mail：zosc@cityfujisawa.ne.jp



(左) 松橋崇史
 まつはし・たかし
 一般社団法人 善行大越スポーツクラブ 設立監事
 東京工科大学メディア学部 助教

(中) 櫻中勝信
 さくらなか・かつのぶ
 一般社団法人 善行大越スポーツクラブ クラブマネージャー

(右) 斎藤和真
 さいとう・かずま
 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程

地域の大学と連携しているクラブ

“学生指導者”が盛り上げる地域スポーツ

～みはまスポーツクラブ～

愛知県美浜町と日本福祉大学が協働で立ち上げた「みはまスポーツクラブ」では、大学が持つ施設や人材を有効に活用し、子どもから高齢者まで幅広い教室を実施しています。大学と連携し、障がいのある人が参加できる教室を開催するなど、クラブ立ち上げ当初より大学と協力して地域スポーツを盛り上げています。

♂ 2つのキーポイント

- ① 学生を指導者として活用し地域貢献
- ② 実践授業を通して大学の単位を取得

1 クラブ概要

みはまスポーツクラブは、平成22年度から2年間の準備期間を経て、平成24年度に活動を開始した設立3年目の新しいクラブであり、その特徴は、地域の大学（日本福祉大学）と連携して総合型クラブを立ち上げたことです。

日本福祉大学は、大学生による地域貢献の強化、指導実践によってもたらされる競技力向上、及びスポーツを通じた学生教育の場の確保などを目的に、総合型地域スポーツクラブとの連携に早くから着目していました。クラブ側も、地域の少子高齢化が進む中で、活力ある人材を常に確保することが可能になること、また、学生が大学での学びを生かしながら地域の人々と交流し地域を活性化できることは地域に根付いたクラブを目指すための強みになると考え、連携がスタートしました。

その後、設立準備期間から、たくさんのイベント事業や教室事業を展開し、学生や地域住民のニーズを探りながら会員を募集してきました。現在も「さまざまなスポーツ・文化活動を通じて、子どもから大人まで、地域の人たちと学生がふれあえる、明るく活気あるまちづくり」という理念のもと約670名の会員にさまざまな教室事業を提供しています。

2 学生を指導者として活用し地域貢献

当クラブでは、日本福祉大学運動部の学生を指導者として活用しています。陸上部によるかけっこ教室や、女子サッカー部によるちびっこボール遊び教室、卓球部の卓球教室など、学生講師による指導実績があり、どの教室も対象者が園児～小学生であることから教員や指導者を目指す学生にとってよい経験となっています。

学生たちは、各部で集まり子どもたちへの指導内容を検討し、企画書などを大学側に提出します。通った企画のみ指導することができるため、指導するまでに考えたプロセスや、指導をした経験が学生の教育に繋がると大学側は考えています。また、人に教えることで自らの競技能力を見直すこともでき、最終的に各運動部の戦績につながれば一石二鳥です。

1回の指導につき各運動部に対し1000円の謝金としているのでクラブ側の財政的な負担は少なく、大学側は地域貢献の場としてクラブ事業を活用しています。

3 大学の単位を取得できるメリットも

日本福祉大学社会福祉学部と経済学部の共通プログラム「地域研究プロジェクト」の一つである「健康プロジェクト」では、当クラブと連携してポッチャ大会を開催しました。大会には「ポッチャ de健康サークル」の方々にも参加して頂き、授業の一環として企画・運営に携わることが学生の単位取得の条件となっています。

大学側は、クラブとの連携をあくまで学習の場の一つとして考え、地域の運動教室での企画・運営を通して、

アダプテッドスポーツ(障がい者スポーツ)による健康体力づくりの学習を進めることを目的としています。スポーツイベントの参画を通して地域の方々とのスポーツ交流を体験することに重点を置いているため、クラブから謝金などの支払いもありません。企画・運営を実践的に学ぶ場があることは、学生にとって大きなプラスとなり、また、普段は接点のない地域住民と学生が交流することができる活気ある事業となっています。

4 今後の展望

地域の人にマイクラブという認識を持ってもらい、愛されるクラブになることを目指しています。「大学と連携しているクラブ=大学が保有しているクラブ」という認識ではなく、地域の参加者が主体的、自主的に教室・サークルに参加し、運営する仕組みづくりが必要となります。今後は、教室事業をサークル事業に移行していきたいと考えています。大学側のサポートを得ながら、参加者内でリーダーを決めて自主的・主体的に活動し、気軽に運動に取り組めるようなプログラムやシステムを構築、提供していきたいと考えています。

(愛知県 クラブアドバイザー 藤田 佳保里)



園児～小学生が中心の教室では、大学生が指導者として活躍している。

クラブプロフィール

設立年月日：平成24年9月23日

地 域：愛知県知多郡美浜町奥田

運 営：会員数664人(平成26年5月)

予算規模：約200万円

連絡先：〒470-2403

愛知県知多郡美浜町大字北方字十二谷1-2

T E L：0569-82-5200

F A X：0569-82-5201

H P：http://www.n-fukushi.ac.jp/sports/pre/index.html

地域の大学と連携しているクラブ

大学との連携で地域を代表するクラブに成長 ～特定非営利活動法人 長野総合スポーツクラブ～

大阪府河内長野市に位置する「特定非営利活動法人 長野総合スポーツクラブ」では、クラブ側の熱心なアプローチにより、大学との協働がスタートしました。現在は、複数の大学からインターンシップ実習の受け入れをするまでに至っています。連携がスタートした経緯から長期的に大学とクラブ間の良好な関係を築く方法などをご紹介します。

♣️ 2つのキーポイント

- ① クラブ側のアプローチで連携をスタート
- ② 「インターンシップ=人材確保」ではない

1 クラブ概要

クラブ設立のきっかけは、学校週休2日制に伴うアンケートで、子どもが望む休日の過ごし方の質問に対し、約60%が「スポーツ」と回答したことでした。そこで、子どもを活動対象の中心としている地域のクラブが集まり、まずは、小学校区でファミリースポーツクラブ(FSC)を設立しました。その後、スクールの拡大、会費の安定を図りながら、約3年の準備期間を経て平成16年4月に中学校区で長野総合スポーツクラブを設立、スクール12種目(会員数240名)、サークル9団体(450名)での活動がスタートしました。クラブのキャッチフレーズは、「私たちのまちに豊かなスポーツ文化を！」であり、すべての世代がスポーツや文化活動に取り組める環境作りをしています。

現在は、20種目36スクールのほか、体力測定会、チャレンジスイミングサマースポーツキャンプ、ファミリートレッキング、スキーツアーなどのイベントを展開、また、3月に開催するクラブの最大イベント「みんなのスポーツフェスタ」には、毎年1千人を超える地域住民が参加します。

2 クラブ側のアプローチで連携をスタート

クラブが考える大学との連携は、クラブは「大学との連携で人材確保ができる」、大学は「クラブとの連携で教育活動の場所が確保できる」といったものでした。クラブ側が地域のイベントに協力している大学(研究室)へ、そのイメージを伝える企画書を持ち込み大学との連携がスタートします。最初は、イベントへの協力など短期的なサポートから始まり、徐々に就学前及び小学生の子どもの体操教室の補助といった定期的な関わりへ発展していきました。その後、長期的なサポートを得るためクラブの活動を大学側と学生に紹介する認知活動の場を設け、複数の大学とインターンシップ実習や専門知識を活かしたイベント開催(体力測定会など)など、多様な取り組みを展開しています。今では大学側から新たな提案を受ける関係に発展し、大学を通してつながった学生が後輩や友人を連れてくるなど新たな人材確保のきっかけとなる理想の循環が生まれつつあります。

3 「インターンシップ=人材確保」ではない

クラブイベントへの協力から始まった連携も、現在では複数の大学から単位取得ができるインターンシップ実習先として認知されています。学生の実習を受け入れるようになり年間を通して安定した人材確保が実現し、クラブ外で実施するイベントや他クラブとの交流など積極的に参加できるようになりました。また、実習生として学生がクラブ活動に参加することで、クラブ指導者が、指導内容の振り返りや教室全体の構成を考えるきっかけとなり、指導者のスキルアップ、クラブの資質向上につながっています。

しかし、一方では新たな課題も生まれました。大学側からインターンシップ学生に対する教育的な指導や評

価がクラブへ求められるようになったことです。このような経験をもとに、「インターンシップ＝人材確保」ではなく、学生のインターンシップを人材確保のきっかけとし、学生へインターンシップから発展した地域への関わりを提供するといった連携の形を生み出しています。

4 今後の展望

大学との連携を模索して10数年たった現在、インターンシップ実習の受け入れや研究室とつながりを持つことで、結果として長期的な人材確保が実現しています。クラブ側のアプローチなくして現在の関係を築くことは難しかったと考えています。連携を通し関係が発展すると、クラブと大学双方で求めることも変化していきます。クラブが「スポーツを楽しむ場を作り出す」という目的を見失わないようにすることが必須条件ともいえますが、その中で、これからもさまざまな形で大学との長期的な連携を継続していきたいと考えています。

(大阪府 クラブアドバイザー 祐末 ひとみ)

クラブプロフィール

設立年月日：平成16年4月29日設立（平成21年4月2日NPO法人格取得）

地 域：大阪府河内長野市長野中学校区

運 営：会員数（スクール349名 サークル376名 2014年5月末時点）

予算規模：1400万円（平成26年度）

連絡先：〒586-0016 大阪府河内長野市西代町14-1

T E L：0721-56-2032

F A X：0721-22-4770

E-mail：info@nagaspo.com

H P：http://www.nagaspo.com/

協賛金・寄付金を上手に集めているクラブ

協賛イベントで住民だけでなく地域経済も元気に ～肥前いろはクラブ～

クラブ設立は今年3月と、まだ日が浅いながらも設立前から企業や地域団体と協力し、さまざまなスポーツイベントの開催を成功させている「肥前いろはクラブ」。イベント開催に向け、企業にどのようなアプローチをして協力を得ているのか、また、企業や団体との協賛イベントをどのようにして成功へと導くのか、そのヒントをご紹介します。

🔑 キーポイント

- ★ クラブと企業、お互いの利益を考える
- ★ スポーツイベントを通じて特産品をアピール

1 クラブ概要

クラブの活動拠点である佐賀県唐津市肥前町は、地域の過疎化が進み、地域経済もそれにともない活力が低下していました。そういった現状を改善すべく注目したのが、当時、人口の減少とともに衰退していた地域スポーツの再活性化でした。地域スポーツを盛り上げ、地域住民のコミュニケーション、世代間交流の場を確保・提供することが、地域社会の活性化に繋がり、また、スポーツイベントを通じて、多くの参加者を呼び寄せることで地域経済の活性化にも大きな効果があると考えました。

まずは、クラブの発起人である寺田香一氏が設立準備の指揮をとり、その熱意と行動力に賛同した地元住民が集い、平成24年6月「肥前総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」が発足しました。その後、サッカーやバドミントン、ミニバレーなどのスポーツ教室や絵手紙教室などの文化活動を展開しながら、徐々に活動の範囲を広げ、平成26年3月に「肥前いろはクラブ」が設立されました。

2 クラブと企業、お互いの利益を考える

設立したばかりの当クラブは、知名度や経済基盤もなく、魅力あるイベントを開催するためには多くのサポートを必要とします。クラブ側は協賛イベントの際に、企業や団体から賞品の提供や会場設営などの協力を得ますが、クラブが一方向的に援助を受ける関係ではなく、必ずお互いにとって利益となる提案を積極的に行っています。

代表的な例として、スポーツ用品専門店の協力を受けた大会では、賞品の提供などを受ける代わりに、会場内に企業の横断幕を掲示、また、同店の割引チケットの配布などを行いました。そのほかにも、毎回人気のイベントであるサッカー大会には、地元の旅館組合と協力した「玄海町旅館組合杯」や、JAからつと協力した「佐賀牛カップ」などの例があります。さらに、大手スポーツメーカーや飲料メーカーの協力のもと実現した「WASSE in 玄海」では、世界的に活躍するプロフリースタイルフットボーラーのWasseをゲストに招き大盛況の大会となりました。

協賛イベントは大企業との開催から、地元のスーパーと協力したもので、さまざまな種類の助成や協力を得て実行しています。もちろん、すべての協力依頼が受理されるわけではありませんが、積極的に提案を続け、小さな実績を積み重ねることで事業規模が徐々に広がり、年々、より多くの参加者とより大きな協力が得られるようになってきています。

3 スポーツイベントを通じて特産品をアピール

スポーツイベントの開催による地域スポーツの振興は、地域経済の活性化にも大きく役立っています。前出の地元の旅館組合と協力して行った2日間のサッカー大会では、参加者に地元の宿泊施設に滞在していただき、地域の食事や名所を楽しんでいただくとともに、会場では地元の特産品ブースを設けて販売するなど、クラブと地元

組織が一体となってイベントを盛り上げました。

そのほか、JAグループ佐賀肥育牛部（佐賀牛消費宣伝事業委員会）の協賛を得た大会なども主催し、地元特産品を広く知っていただく場としても活躍しました。



「佐賀牛カップ」(JAからつ・うまかもん市場協力)や、企業からの協力を得て開催したサッカー教室、走り方教室の様子

4 今後の展望

現在は、定期教室などのクラブ運営を助成金や大会収入で補っている状況です。スポーツ用具や施設の拡充、指導員の技能向上を図り、会員数や教室参加者の増加により、クラブ単体での自主財源を確保することが必要です。しかし、この問題は、一番の目的である「スポーツ活動を通して地元を活性化させる」という理念を、実績を積み重ねながら、地域住民に理解してもらうことで必ずクリアできると考えています。また、今年度は、NPO法人格を取得するとともに、健康づくりやスポーツ施設の管理といった事業を受託するなど安定した財政基盤を目指しています。

今後も、コミュニケーション、雇用、健康増進といったさまざまな機会を提供することで、地元住民がクラブに寄り添い、そして地元を愛してくれるようになるよう精力的に活動していきます。

(佐賀県 クラブアドバイザー川原田 賢二郎)

クラブプロフィール

設 立：平成26年3月26日
地 域：佐賀県唐津市肥前町
運 営：会員数127名(平成26年6月末時点)
予算規模：594万円(平成26年度)
連絡先：〒847-1511 佐賀県唐津市肥前町新木場乙131-1
TEL・FAX：0955-54-2650
E-mail：qqzm3m8d@fork.ocn.ne.ne.jp
H P：seifu-inoue.wix.com/hizen

協賛金・寄付金を上手に集めているクラブ

地元企業や保護者が支援する「地域作り」

～ふじみ野ふあいぶるクラブ～

会員の約70～80%を小学生が占めるふじみ野ふあいぶるクラブは、「はじめてのスポーツを、身近な学校・施設で！」がキャッチフレーズ。バスケットボールを中心に、さまざまな教室を展開しています。特に「わくわくバスケホリデー」は地元住宅メーカーが協賛し、好評を博しています。地域と保護者が一体となって盛り上げる総合型クラブに注目しました。

🔑 キーポイント

- ★ さまざまな「つながり」を大切に
- ★ CSR事業としての大会協賛
- ★ 保護者たちの働きかけによる費用支援

1 誰でも参加できるスポーツ広場を目指して

ふじみ野ふあいぶるクラブは平成21年3月、会長兼クラブマネジャーを務める篠島幹昌さんを中心とした6～7人のスタッフで設立されました。

中高生の頃からバスケットボールや野球、テニスを経験してきた篠島さんは、大学卒業後、ふじみ野市で開催されるスポーツ大会の運営を手伝います。この経験が総合型スポーツクラブに興味を持つキッカケとなりました。「運営側に入ると、それまで見えなかったものが見えてきます。さまざまな方とつながっていく中で、課題やいろいろな声が聞こえてきました」と篠島さん。まずは「誰でも参加できるスポーツ広場」をテーマに、身内の十数人でスタートし、徐々に参加人数を増やし、子どもたちの参加も増え、さらに「スポーツ教室」を開催してほしいとの根強い声もあり、クラブを立ち上げました。「地域作り」をクラブ理念に掲げ、「敷居があってつながらぬものに横串を通すように、私たちが介在していろいろな活動をつなげられれば」という思いがやがて、ふじみ野ふあいぶるクラブの大きな特徴となっていきます。

2 子育て支援CSR事業としての大会協賛

ふじみ野ふあいぶるクラブの現在の会員数は約520人（平成25年度）。その70～80%を小学生が占めています。そのため、ジュニア育成のための環境作りも、クラブ目標の一つになっています。特に「種目モデル」としているバスケットボールは、市内の中学校区ごとにバスケ教室を設置するだけでなく、1年に数回、地元の住宅メーカーを協賛に迎えたイベント「わくわくバスケホリデー」を開催しています。

従来の大会協賛は、「たくさんの観客、たくさんの参加者」のいる大会に付く傾向がありましたが、この「わくわくバスケホリデー」の参加者は100人前後。住宅メーカーは「子育て支援のCSR（企業責任）事業」として、スポーツ・イベントを探していたところでした。そして、その住宅メーカーに対しての提案は（ふだん提案営業を仕事にしている）クラブの保護者スタッフの提案サポートの協力があったからこそ、スムーズに話がまとまった背景もあったようです。「わくわくバスケホリデー」で、スポーツ未経験の子どもたちがコンテストやイベントを楽しみ、保護者の方たちが応援している雰囲気を見て、住宅メーカーは協賛を決めたそうです。住宅メーカーに対してふじみ野ふあいぶるクラブでは、イベント期間中の会場内や告知ポスター、チラシなどさまざまな場所でメーカー名の露出を行っています。また、住宅メーカーがCSRとして広報宣



「わくわくバスケホリデー」では、6つの中学校区の教室による対抗ゲームが実施される



会場はふじみ野市立東台小学校の体育館

伝を行う際には、イベント実績として「わくわくバスケットホリデー」を情報発信に活用してもらっています。まさに「地域貢献や社会貢献を総合型スポーツクラブが担い、それを支えてくれるのが企業」という連携を効果的に利用しているイベントです。ここにも、ふじみ野ふぁいぶるクラブ設立当初からのさまざまな「つながり」が活用されていると言えるでしょう。



今年6月29日には第3回を開催

3 保護者たちの働きかけによる費用支援

ふじみ野ふぁいぶるクラブのキャッチフレーズは「はじめてのスポーツを、身近な学校・施設で！」です。この「はじめて」「身近」をキーワードに、バスケットボール、テニス、バドミントン、チアダンス、ヨガ、理科(実験科学)などたくさんの教室が開かれています。そして、この教室に参加する小中学生の子どもを持つ保護者をはじめ、地域の保護者の方たちに対して、地域参加の場を作り出すことも、クラブの大きなテーマになっています。

大切なのは、保護者の方たちが無理なく楽しみをもって、支える側で参加してもらえること。一つの工夫としてプロボノ(職業上持っている知識・スキルや経験を生かして社会貢献するボランティア)として参加してもらえるような場作りも行われています。

最近では、支える側で参加してくれたお父さんたちが、勤める企業に対して、CSRとして費用支援の働きかけをする動きも出ています。この企業支援により、例えば理科(実験科学)教室に必要なメガネ代や、資料作成の用紙代などをねん出しています。

篠島さんは「スポーツで始まったクラブですが、文化活動も含め、子どもや保護者に、する側と支える側などでいろいろな体験をしてもらい、一つの地域参加の場になるように心がけています。今後は、自分たちの方から(企業に)提案できる、総合型クラブならではのプロジェクトや事業を作っていきたい」と抱負を語ってくれました。



ふぁいぶる理科(実験科学)教室も小学生には人気

クラブプロフィール

設立：2009(平成21)年3月8日
 地域：埼玉県ふじみ野市
 運営：会員数520名(平成25年度)
 予算規模：約2,000万円(内、平成25年度toto助成金約500万円)
 連絡先：ふじみ野ふぁいぶるクラブ事務局
 〒356-0011 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1
 ふれあいプラザかみふくおか2F
 TEL：0120-961-184 FAX：049-293-8457
 E-mail：fujimino_ssc@yahoo.co.jp
 H P：http://fujimino-ssc.com
 Facebook：facebook.com/fujimino.ssc

クラブ内研修を行っているクラブ

独自の研修で地域、そしてクラブの若返りを図る ～ NPO法人 吉野スポーツクラブ (奈良県吉野郡) ～

地域産業の衰退による町の少子高齢化とともに、指導者、クラブスタッフの高齢化といった問題を抱える奈良県吉野町にある「吉野スポーツクラブ」。このような問題を解決するため、クラブでは独自の若手育成研修プログラムを行っています。研修の内容とともに、実際に受講しクラブで活躍することになった若手スタッフの声をご紹介します。

🔑 キーポイント

- ★ 若手育成で地域の高齢化にストップ
- ★ 認定制度で独自の研修を義務化
- ★ クラブがスポーツに関わりたい若者たちの「帰る場所」に

1 クラブ概要

吉野スポーツクラブは、平成13年に文部科学省の総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業として行政主導にて設立準備が始まり、平成15年8月に設立されたクラブです。その後、平成22年7月にNPO法人格を取得、設立10年目を迎えた平成25年には吉野運動公園の指定管理者となりました。

当クラブの理念は「スポーツを通じた まち ひと づくり」です。林業の町として栄えた吉野町は、近年に入り林業の衰退とともに地域社会も少しずつ元気がなくなっていました。そこで、地域社会の再建のため、スポーツの力を活用し、クラブを通じた町づくり・地域づくりを目標としたクラブ活動のほか、健康・体力づくり事業財団や奈良県地域での花いっぱい運動支援などの多岐にわたる受託事業を行っており、地域の新しい公共を担っています。

2 若手育成で地域の高齢化にストップ

林業の衰退とともに少子高齢化が進む吉野町は、年々町内の人口も減ってきています。現在は、元教員などの地域の人々がクラブでの指導を行っています。スポーツ指導者の資格を持つ人は少なく、数年後は指導者の高齢化も懸念されていたため、若い指導者の育成を含めた研修は必須でした。そこで、いろいろな講習会や研修会を視察しましたが、このようなクラブの問題を解決できるプログラムはなく、そのため「自分達で ひと づくり」しようと独自の研修制度ができました。若い指導者・スタッフへの研修は 若い世代にこの地域に目を向け、地域の将来を担ってほしいという思いもあります。

3 認定制度で独自の研修を義務化

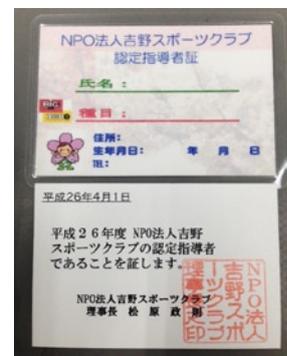
研修を受けることで、指導者・スタッフとしてクラブで活躍することができる認定制度を導入し、研修を義務づけました。平成26年度に行われた2日間の研修では、1日目に、指導者の育成としてプロ指導者による指導教室を行い、2日目は「スポーツをより安全に」をテーマに、消防職員によるAEDの使用法や簡単な救急法、熱中症予防についてなどの実習を含む講習を行いました。そのほか、クラブ理念の共有も行い、クラブの存在やプログラムの意義や重要性の確認をしています。また、どんな場面においても常に迅速に行動・対処できるよう、安全管理などの講義も行いました。

このような研修について、自らもクラブ講師や若手指導を行うクラブマネージャーの村田満さん(61歳)は、「プロの指導者を呼ぶことは、単に指導だけを学ぶものではありません。その人の生き方・生きがい・生きざまを知ることによって自分の内なる目標になるものを見つけてもらうことが研修の目的です」と話しています。また、受講者は、研修を受けることで指導者・スタッフとしての知識を得るだけでなく、それぞれに目標を見つけることができ、地域住民にスポーツを推進していく上での自信にもなっているようです。また、研修によってクラブのミッション・ビジョンが明確になることで、クラブスタッフ同士の結束力にもつながっています。

研修にかかる経費は、講習会のテーマによってさまざまです。例えばAEDの救急方法は、広域の消防署にお願いしてボランティアで引き受けてもらいました。また、熱中症予防法も某製薬会社の方のボランティアで実施しました。ただし、プロの指導者を招いての講習会では、ボランティアになる場合と講師謝金を支払う場合があります。謝金が発生する場合は、クラブの管理費からねん出しています。



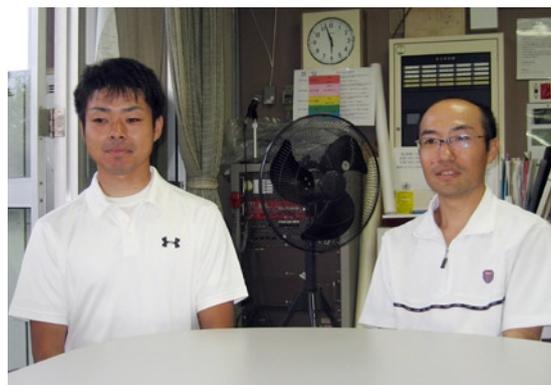
研修会や講習会の様子



受講後に発行される認定指導者証

4 クラブがスポーツに関わりたい若者たちの「帰る場所」に

元陸上選手の小林祥英さん(32歳)は、現在、クラブで陸上競技指導者、運営スタッフとして活躍していますが「指導者として子どもにスポーツする楽しさを教えたいということでスタートしたので楽しみながら参加できました。子どもたちと触れ合うことでたくさんの気づきもあります」と話し、選手時代とは違うスポーツの楽しみを発見できたようです。また、研修ではたくさんのことを学んだと、その重要性を実感。「運営スタッフとして自分の作成したリーフレットが認められた時はうれしかったです」と、クラブで働くことのやりがいを語るるとともに、「自分を認めてもらえる場所」が地域にあることの大切さを語ります。また、サッカー指導者で公認アシスタントマネージャー資格を持つ浦谷仁規さん(26歳)も、クラブの研修に参加した後、地域のサッカー少年団から指導者としてこのクラブに帰ってきた若手指導者のひとりです。このように、研修会は、若い世代に地域で働くことの魅力を伝える場としても役立っています。



クラブで活躍する若手スタッフの浦谷さん(左)と小林さん(右)

5 今後の展望

今後も「地域に誇れるクラブから地域が誇れるクラブへ」をスローガンに、生きがいを提供できるクラブづくり、地域を生かしたクラブづくり、地域に貢献するクラブづくりを目指します。また、少子高齢化の中、子どもにとって希望が持て、高齢者の方には生きがいを感じられるクラブづくりをするとともに、地域に貢献することで地域の支援の下、地域をあげたクラブづくりをしていきたいと考えます。たくさんの人が集まり「スポーツを通した町づくり、人づくり」に取り組み、クラブが「地域の宝」になれるようクラブの発展に尽くしたいと思っています。

〈吉野スポーツクラブ松原政則理事長 談〉

(奈良県クラブアドバイザー 川崎香織)

クラブプロフィール

設 立：平成15年8月19日

地 域：奈良県吉野郡吉野町地区

会員数：437名（平成26年7月時点）

予算規模：5074万円（内指定管理費3205万円／補助金1147万円）

連絡先：〒639-3101

奈良県吉野郡吉野町山口910番地 吉野運動公園内

TEL：0746-32-1119 FAX：0746-32-1514

E-Mail：ma27gd77ml@kcn.jp HP：http://web1.kcn.jp/ysc/

クラブ内研修を行っているクラブ

ケガ予防研修で長く楽しくスポーツを楽しむ

～青山スポーツクラブ(愛知県半田市)～

地域の小中学校と連携したクラブ活動を主に行っている青山スポーツクラブでは、毎年2つの研修会を行い、子どもの保護者から継続的な運営のサポートを得たり、ケガ予防についての知識をレクチャーすることで長期的に生涯スポーツを促進しています。どのように研修会を開催し、そして研修を行うことでどのような変化があったのかをご紹介します。

🏹 キーポイント

- ★ クラブの重要性を再認識「クラブ運営研修会」
- ★ いつまでも楽しくスポーツ! 「ケガ予防研修会」

1 クラブ概要

青山スポーツクラブは、スポーツ推進委員会を中心に平成13年3月に設立された、ことしで14年目を迎える歴史あるクラブです。地域の子どもは地域で育てるという方針のもと、青山中学校内にクラブハウスを設け、学校の教員や保護者が指導者となって小中学校と連携した活動を主に行っています。そのほかにも、親子で参加できる教室なども実施しています。

設立のきっかけは、学校週5日制の完全実施により、以前にも増して地域・家庭・学校が協力した子育てが必要であると考え、生涯スポーツとして機能する団体を確立したいという思いからでした。設立当初は青山中学校の部活動と連携したクラブ活動でしたが、現在は、中学校以外にも花園小学校、板山小学校など、小学校との連携も始まりました。

設立から10年以上が経過し、学校の校長先生や理事が変わることでクラブ方針の変化もありましたが、保護者が指導に関わるなどしながら小中学校と連携したクラブ活動を続け地域での子どもたちの育成をサポートしています。

2 クラブの重要性を再認識「クラブ運営研修会」

小中学生を対象としたクラブ活動のため、参加者やクラブ運営に関わる保護者が年度ごとに入れ替わります。そのため、改めて総合型クラブとは何かを知ってもらう機会として始めたのが、県体育協会のクラブアドバイザーの協力を得て実施している「クラブ運営研修会」です。この研修会を新年度の早い時期に開催することで、新しくクラブに関わる方のクラブに対する理解を深めていただく場として、また、すでに参加していただいている方には、クラブ活動の重要性を再認識していただく機会として活用しています。研修会開始後は、子どもが学校を卒業しても、クラブスタッフとして活動をサポートしてくださる保護者の方もいらっしゃるようになりました。

また、悪天候時の教室開催変更などの連絡手段である「らくらく連絡網」についても案内を行うことで、スタッフの入れ替わり後も緊急時の安全管理などに研修会が役立っています。



クラブ運営研修会

3 いつまでも楽しくスポーツ！「ケガ予防研修会」

もう一つの研修会は、生涯スポーツの観点から、子どもから高齢者まで年齢に関わらず運動を続けることができるように始めた、ケガをしにくい体づくりのための「ケガ予防研修会」です。地域の接骨院の先生を講師として招き開催していますが、毎年、継続してケガ予防に関する研修会が実施されるため、新しい参加者だけでなく、参加経験者の復習の場としても、とても人気の研修会です。90分の研修会に対し「時間が足りない」という意見が出るほど参加者の満足度は高いようです。ストレッチやテーピング実習などの実技研修のほか、参加者の中に保護者が多いことから、家庭での応急処置法を教えるなど、その内容も充実しています。



ケガ予防研修会

4 研修会の開催経費

「クラブ運営研修会」と「ケガ予防研修会」の開催経費は、毎年度の事業計画および予算を考える際に予算化をします。補助金や協賛金の支援は一切なく、年会費収入から研修会費として捻出しています。2回の研修会は青山中学校で行われるため、会場使用料はかかりません。

また、講師の方の謝金や旅費は、「クラブ運営研修会」の場合、愛知県体育協会および広域スポーツセンターのアドバイザーの方を活用するため必要ありません。「ケガ予防研修会」の場合は、地域の接骨院の先生に講師を依頼しています。総合型スポーツクラブに理解がある方で、2万円＋消費税で引き受けてくださいます。このように地元の先生等をうまく活用し、ローコストで研修会を開催しています。

5 今後の展望

現在は、小中学生の活動が主になっていますが、今後は、大人や高齢者の参加できる教室を増やし、会員数及び年齢層の幅を広げることが目標です。また、スポーツだけでなく文化活動などの教室も展開し、スポーツが苦手な方でも気軽に足を運べる場所としても活用していただけるクラブを目指したいと考えています。そのほか、学校と連携した活動では、学校の行事の際は活動できないという課題があるため、学校の先生以外の指導者や補助スタッフの確保に力を入れるとともに、卒業生が指導者として地域に戻ってくるような好循環システムを構築させたいと考えています。

(愛知県クラブアドバイザー 藤田佳保里)

クラブプロフィール

設 立：平成13年3月25日
 地 域：愛知県半田市青山5-6-1
 会員数：5621人(平成26年7月時点)
 予算規模：730万円
 TEL：0569-32-2027

クラブ内研修を行っているクラブ

日常生活の「フェアプレイ宣言」で地域を元気に ～みやまスポーツクラブ(京都府南丹市)～

京都府にある「みやまスポーツクラブ」では、日本体育協会が提唱する“フェアプレイ宣言”に基づいた研修を行っています。スポーツをしている時だけではなく、日常生活の中で行える「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」のフェアプレイ行動による、明るく元気な街づくりの取り組みをクローズアップしました。

♂ キーポイント

★ 身近にある“フェアプレイ”の重要性

1 クラブ概要

みやまスポーツクラブは、以前、旧村(小学校区)単位のサークルなどで活動していましたが過疎化や少子高齢化が進むにつれて活動に必要な人数が集まらずに競技を実施できないなどの悩みがありました。しかし一方では、スポーツ活動や文化活動をしたいという声もあり、南丹市体育協会美山支部で協議した結果、体育指導委員や地域のスポーツ少年団、地域振興会などから委員を選出した、総合型クラブ設立のための準備委員会が発足しました。

当クラブは絆づくり、人事育成、地域の活性化を理念とし、ことしで設立3年目を迎えました。11種目のスポーツ教室、トップアスリートを迎えてのスポーツ研修(年1回)や、クラブ広報誌の発行(年2回)、スポーツのつどい(教室)カレンダーの発行(年4回)などを主に行っています。

2 身近にある“フェアプレイ”の重要性

みやまスポーツクラブの会長である村田正夫さんが指導者研修会や日本体育協会のリーフレットなどで目にした「フェアプレイで日本を元気に、あくしゅ、あいさつ、ありがとう」のフェアプレイ宣言に共感、クラブの指導者、スタッフと共に学びフェアプレイ宣言をしようということで研修会が開始されました。

研修会では、講師として公益財団法人京都府体育協会主事の橋本浩司さんを招きフェアプレイ宣言について講義をしていただきました。また、そのほかにも総合型クラブの全体像についてクラブアドバイザーの畑由紀子さん、クラブ運営での失敗から学ぶ組織のあり方について同じくクラブアドバイザーの石原智子さんの講義も行い、改めて総合型クラブのあり方について学ぶ機会の場としても活用しています。

具体的な研修の内容としては、日本体育協会が提唱するフェアプレイ宣言、フェアプレイ7か条についての共有や、実際にスポーツの現場で起きた行動としてのフェアプレイのエピソードの紹介、そして「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」この3つの大切さについての講演です。

参加者には「フェアプレイ」という言葉はスポーツ競技の中でのみ使われると思っていた方が多く、参加者から講演後には、「日常生活の中で、『フェアプレイ』をいかに実践していくかを研修で学びました。どんな場面でも『あくしゅ、あいさつ、ありがとう』を忘れずに、人とのつながりを大切にすることが大事だと分かりました」という意見や「お隣さんとの『あいさつ』もフェアプレイのひとつ。そのことを心がけ、地域ぐるみで元気でいたいです」などの感想が寄せられました。

研修会には30名が参加し、研修会終了後は全員でフェアプレイ宣言も行いました。その後も、内容に感銘したとのメールが京都体育協会に届くなど、とても有意義な研修会となったようです。今後は、この「フェアプレイ宣言」を地域の子もたちに知ってもらえる機会を作り、研修会を実施していく予定です。

3 今後の展望

現在、高齢化現象の中にある地域において、どのようなスポーツの取り組みをすべきか、また、どのようにして会員数を増加させるかを明確にすることが今後の課題です。

11種目によるスポーツ教室の活動の中、会員の構成年齢の幅を広げ、住民相互の交流と健康維持に役立つクラブでありたいと思っています。また、誰もが気軽にいつでもスポーツや文化活動に参加できる場を作ることにより、地域住民の憩いと親睦を図り、健康で活力ある地域づくり、生涯スポーツ社会の実現につながることを期待できます。美山町を愛し、町の地域資源を生かした活動で、美山町らしさを忘れない素晴らしい夢を語れるクラブになっていけると考えています。



みやまスポーツクラブ活動の様子



フェアプレイ宣言の講習会

(京都府クラブアドバイザー 石原智子)

クラブプロフィール

設 立：平成24年3月27日

地 域：京都府南丹市

会員数：400名(平成26年6月時点)

予算規模：350万円(平成26年度)

連絡先：〒601-0797 南丹市美山町島島台51

南丹市教育委員会社会教育課

TEL：0771-68-0044 E-Mail：miyaspo@kyoto.zaq.jp

指定管理者制度を生かそう

廃校になった小学校施設を利用したクラブ運営 ～NPO法人WillDo(ウィルドゥ)(長崎県佐世保市)～

長崎県の総合型クラブWillDoでは、廃校になった小学校施設の指定管理者となり、建物を有効活用することで、さまざまな教室を展開しています。かつて地域の人々が通った小学校がどのようにして生まれ変わり地域住民の憩いの場となったのか、その活動をクローズアップします。

🔑「指定管理」に関わるキーポイント

- ★ 市の公募で集まったメンバーで委員会が発足
- ★ 指定管理はクラブ経営の補助という考え方

1 クラブ概要

NPO法人 WillDo(ウィルドゥ)は、平成16年度、17年度の日本体育協会育成指定クラブ委託事業を受託し、平成17年12月1日に設立されたクラブです。

クラブ設立のきっかけは、平成14年に佐世保市の公募で設立された市総合型地域スポーツクラブ研究委員会です。この研究委員会に、スポーツに理解と関心のある市民10名とアドバイザー3名が集まりました。現在のクラブマネージャーである浅井増雄氏も委員会に参加したメンバーの一人です。この委員会で得たクラブの必要性や目的についての知識が、クラブの第一歩を踏み出すきっかけとなりました。また、委員会における他のクラブの視察や、総合型クラブに関する行政の動向についての情報をいち早く収集できたことが、法人格取得、指定管理者資格の受託にも大きく役立ちました。



かつての学校の面影を残す教室は、クラブが指定管理者となったことで幅広い世代の人々が集う場所へと生まれ変わった。

2 廃校となった小学校を指定管理で有効活用

クラブの活動は、佐世保市にある花園、旭、清水中学校区のPTA会長である浅井増雄氏とPTA役員が中心となり、年々減少する部活動種目を改善したいという思いからスタートしました。ドーナツ化現象により廃校となった佐世保市中心部の旧戸尾小学校の指定管理を受託することで、空き教室をクラブハウスとして利用し気軽に通えるスポーツクラブになっています。そのほかにも、セルフ卓球や床を補強したトレーニングジム、壁を補強したゴルフスタジオなど、校舎をクラブの運営に有効活用しています。地域住民が集う場となり、地域全体で子どもたちを見守りながらスポーツを楽しみ、「この前、ホームランば打ったとってな(ホームランを打ったそうだな)」、「コラ、そがんズンダレた格好ばすんな(そんなだらしなない格好をするな)」、そのような会話の成り立つ地域を目指して多数の教室を運営中です。

3 指定管理はクラブ経営の補助という考え方

平成16年度、17年度の日本体育協会育成指定クラブ委託事業の受託では、できるだけ早いクラブの設立を心がけ、設立と同時期の法人格取得も目指しました。当クラブは、クラブを通じた地域の健康増進や文化振興、コミュニティの形成促進、豊かな高齢化社会の創設、そして、青少年の健全育成など、地域の発展に寄与することを目的としています。その目的を遂行するために、クラブ経営が絶対に赤字にならないよう2年間の助成金による事業・収支計画は、あくまでクラブ経営のためのスタートとして捉えた収支シミュレーションを徹底して行いました。

施設の管理業務が軌道に乗るまでは多少の苦労もあったようですが、クラブ経営が本来の業務であることを念頭に、「指定管理はクラブ経営の補助」として肩の力を抜きました。クラブハウスにしながら施設の管理を行うこともできますし、300万円の管理費はクラブ経営上の補助金という感覚です。

4 今後の展望

今年度、長崎県では初めて文部科学省の「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」の委託を受けました。学校体育授業への陸上競技元オリンピック選手の指導者派遣や、元Jリーガーによるサッカー教室などから始まりましたが、今後は県内クラブの間で町おこしのための共同事業も検討し、より多くの人達が元気になるお手伝いをしたいと考えています。

(長崎県クラブアドバイザー 田原由美)

クラブプロフィール

設 立：平成17年12月1日
 地 域：長崎県佐世保市中部地区
 会 員：会員数910名（平成26年8月時点）
 予算規模3650万円うち指定管理費300万円（平成26年度）
 連絡先：〒857-0864 長崎県佐世保市戸尾町5番1号
 TEL：0956-25-9373 FAX：0956-59-9376
 E-mail：tyouchikusportsclub@tiara.ocn.ne.jp
 H P：http://www.sasebowilldo.net/

指定管理者制度を生かそう

指定管理者となりクラブが大きく成長 ～ NPO法人川西スポーツクラブ(奈良県磯城郡)～

住民主導でクラブの運営を行う奈良県の川西スポーツクラブ。助成金に頼らない自立したクラブ運営のため挑戦したのが町内に7つある体育館の指定管理業務でした。業務委託以前と、現在のクラブの変化や来年度の入札へ向けた準備などについてご紹介します。

♂「指定管理」に関わるキーポイント

- ★ 助成金はいつまでも続かない
- ★ 業務増加による負担もある
- ★ NPO法人化がクラブ組織を見直すきっかけに

1 クラブ概要

川西スポーツクラブは、平成15年日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成支援指定クラブの委託事業として体協役員やスポーツ指導委員によりクラブ設立の計画がスタートしました。しかし、市町村合併による施設使用の問題などにより、プレ教室として活動が始まったのは平成18年からです。その後、地域住民の参画で平成19年5月に「川西スポーツクラブ」が設立、平成23年1月にNPO法人格を取得、平成24年4月より川西町内にある7つの体育施設の指定管理者となりました。クラブの理念は(全員ひとりひとりが主役)「みんなでつくる・みんなのクラブ」です。

2 助成金に頼らないクラブ運営へ向けて

以前は、川西町の援助によりスポーツや文化的な活動をすべて無料で行っていましたが、川西町の財政は全国でもワースト10に入るほど困難な状況でした。そのため受益者負担を考えるものの「今さらお金をもらえない」というジレンマを抱えていました。そのような状況の中、総合型クラブの立ち上げをきっかけに、施設利用の際は受益者が費用を負担するという考え方を、行政担当者と共にクラブ役員がすべての自治会に説明してまわりました。平成19年5月に設立総会を実施し、体育館内事務所の一部を間借りして安価な会費によりクラブの活動がスタート、町の事業だった教室もクラブの委託事業となり受講料を徴収しました。その後、クラブ設立に向け一緒に尽力してくれた行政担当者が他部署に異動となったことで、行政担当者の行っていた事務作業を地域の方がボランティアで手伝ってくれるなど、徐々に住民主導のクラブへと変わっていきます。それでも手が足りない部分は、平成21年度からのtoto助成金により新規に若い職員を雇うことで落ち着きました。しかし、助成金はいつまでも続くものではありません。クラブの事務所や皆さんが気軽に集えるスペースの確保が急務でした。また、安定した雇用契約をするためにも指定管理者となり職員の賃金を確保することも必要となりました。

3 住民・行政・クラブの三方に利点ある活動

行政側は、指定管理者制度を利用することで、事務作業の軽減、教室事業やイベント事業の委託、また、祝日や夜間の施設開放により町民のニーズに合わせて企画・運営できる、といったメリットがあります。クラブ側にとっても、職員の給与の確保や活動場所の確保といったメリットはありますが、業務の増加による負担も大きいものでした。指定管理を受けることで業務に追われ、クラブの仕事ができなくなることはないよう、理事会とクラブ事務局と念入りに検証した上で、条件要項であったクラブのNPO法人格取得を進め、地域住民へのサービス充実のため、行政・クラブ・住民の三方が協働してそれぞれに利点のある関係を結べ

るよう調整を測りました。

指定管理を受けるためには法人格取得後1年以上の活動実績が必須条件でもあり、NPO法人化することで、改めてクラブ組織を見直すきっかけとなりました。安全管理などをさらに重視したクラブ運営ができる様になり、クラブの自立・自律を手助けしてもらったと感じます。受託後は、施設の空き時間を利用してバランスポール教室などの新事業を行い、クラブ活動の充実を図ることで地域住民へのさらなるサービス向上に繋がっていったと考えます。

平成26年度NPO法人川西スポーツクラブ組織図

理事	理事長	理事&クラブマネジャー(正)	理事&クラブマネジャー(副)	理事	理事	理事	外部より	クラブアドバイザー	監査	
事務局	施設管理マネジャー	施設管理サブマネジャー	事務職員	事務職員						正会員2名

正会員	総務部			管理部		広報部			企画事業部										財務部	
	事務局メイン			事務局メイン		メイン理事1名			メイン理事1名										メイン理事1名	
	サブ			サブ		サブ理事1名			サブ理事2名										サブ理事1名	
	渉外	体育協会	スポーツ少年団	指定管理	施設維持管理	広報誌	啓発	HP	教室事業	クラブ事業	新規事業	マラソン	カーニバル	ダンス	ゴルフ	ボウリング	キャンプ	親善サッカー	ソフトボール	イベント等 その他イベント
9名	6名	6名	4名	7名	6名	5名	3名	5名	8名	6名	13名	13名	2名	2名	2名	5名	3名	4名	11名	事務局2名

指導者	15名	サポート会員	16名
-----	-----	--------	-----

4 今後の展望

指定管理の受託は今年度が最終年度の3年目です。次回の入札までにはこれまでの業績のアピールのほか、これからの新規事業に関することや施設のさらなる有効利用など課題は山積みです。私たちは赤ちゃんからお年寄りまで、すべての地域住民の皆さんが明るい社会生活を送ることができるようにスポーツを通してコミュニティの場所を提供することからスタートしました。「みんなでつくる・みんなのクラブ」のクラブ理念のもと、自分達の居場所づくり・そして仲間づくりは、これからも続いていきます。応援をしてくださる賛助会員を増やすことも含めて、これからも、住民の皆さんにクラブを理解していただき安定したクラブ活動を進めていきたいと考えています。

〈NPO法人川西スポーツクラブ理事一同〉
(奈良県クラブアドバイザー 川崎香織)



クラブ所在地の川西町中央体育館



体育館内にあるクラブ事務室

クラブプロフィール

設立：平成19年5月6日
 地域：奈良県磯城郡川西町地区
 運営：会員数 699名(平成26年8月時点)
 予算規模：3143万円(内指定管理費1460万円：補助金627万円)
 連絡先：〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎1287-1
 TEL：0745-44-1616 FAX：0745-44-1616
 E-mail：ma63aw58ml@kcn.jp HP：http://kawaspo.org/

指定管理者制度を生かそう

行政と一体となって地域スポーツの発信拠点を展開 ～大曲スポーツクラブ(秋田県大仙市)～

行政主導の総合型クラブとして設立された大曲スポーツクラブ。クラブ役員の人選や運営管理機構の整備に力を入れ、いまや3施設の指定管理を受託する、地域スポーツの発信拠点となっています。行政と緊密な関係を保ちながらのクラブ運営は、指定管理者制度を有効に利用する一つのヒントになるはずです。

♂「指定管理」に関わるキーポイント

- ★ 行政主導でクラブ設立。3施設の指定管理を受託
- ★ クラブ役員には地元でのスポーツ経験がある人材を選出
- ★ 施設管理委員会とクラブ事業委員会の2本柱でクラブ運営
- ★ 地域モデルクラブとしてさまざまな受託事業を運営

1 クラブ概要

大曲スポーツクラブは、文部科学省の総合型地域スポーツクラブ育成推進事業の指定を受け、平成17(2005)年にクラブ設立へ一歩を踏み出しました。平成18年2月26日にはクラブを設立し、5月1日の活動開始に向け会員募集、クラブ紹介等、地域浸透を目指し、市の広報掲載や案内チラシを配布し啓発に取り組みました。

クラブ設立2年後には、クラブ運営も軌道に乗り、行政主導ながら平成20年、大曲体育館、大曲武道館、大仙市民プール3施設の指定管理者(2年契約)となりました。委託継続にあたり申請・報告書類の審査と受託2年間の実績も評価され、平成22年度から5年契約の委託となり現在に至っています。

行政サイドには空き施設の有効利用と経費削減の狙いがあります。逆にクラブ運営面では、民間企業として利用者の立場に立ったサービス・奉仕の精神を持って接することにより、行政にはない特徴付けをしたことが功を奏したのでしょうか。

現在は会員250名を維持し、毎週7種目の定期事業のほか、毎月のボウリング交流会、月1回の割合で開催する不定期イベントを企画運営し、会員同士はもとより一般市民の参加も呼びかけ、交流を深めながら活動の充実を図っています。

2 施設管理委員会とクラブ事業委員会がクラブ運営の2本柱

クラブ運営の骨子の一つとして、施設管理委員会を設置したのが特徴です。この施設管理委員会は、指定管理施設の維持管理を中心に、細部にわたる経理の流れまでをチェックする権限を持ち、運営の正当性を追求する機関です。クラブ理事長以下、副理事長(施設管理委員長)、常任理事(施設担当)3名、事務局2名(経理、施設管理担当)が構成メンバーで、収支、施設利用状況、管理状況、備品、設備等の報告に対して、判断と対応を行います。委員会にあがった案件を基に、行政と協議、折衝を行い、クラブ運営によりよい方向性を見出す効果を生んでいます。

3 広がる受託事業

指定管理を受託してから、大仙市直轄で行っていた3つの事業を、市からの受託事業として企画運営することになりました。各事業開催にあたり、地域を超えた参加募集によりクラブの名前が前面に出ることで、クラブの認知度はアップしました。各教室への体験入学の人数が増え、結果的に入会促進に繋がりました。

現在、当クラブは、体育協会大曲支部(旧大曲7地区協会と34競技団体)とスポーツ少年団大曲支部(31団)の2支部の事務委託を受託しています。大曲は大仙市の本部と支部が同居状態にあったため、行政にとっては第一に経費削減、第二に支部の独立の面で大きな効果がありました。今では、大曲地域における体育事業を統括する機能も備わり、地域のスポーツ関連の発信拠点となっています。

指定管理者となって公の施設の管理・運営と事業展開をするうえで、担当行政との緊密な関係を保つことがより一層不可欠になっています。受託事業等を運営するうえでも担当行政課の一部事業代行をする認識で事業展開することにより、デスクワークの時間と量がクラブ独自の事業に比べて相当多くなりますが、デメリットにはなっていないと感じています。

(大曲スポーツクラブ 伊藤 勝)



大曲ファミリースキー場共催の雪上グラウンド・ゴルフ



委託事業・大曲なかよしウォーキング(毎年6月第3日曜日開催)



会員全員で、会場準備～活動～片づけ～モップかけまで一貫して行っています

クラブプロフィール

設 立：平成18年2月26日

地 域：秋田県大仙市大曲地域

会 員：250名(平成25年度)

予算規模：1700万円うち指定管理費1500万円(平成25年度)

連絡先：〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1番1号 大仙市大曲体育館内

TEL：0187-63-1122(FAX兼) TEL:0187-63-1111(内線119・389)

E-mail：oomagari-sc@ia6.itkeeper.ne.jp

HP：http://omagari-sports-club.jp【大曲スポーツクラブで検索を】

クラブの運営業務を分担しよう

思い切った人事&役割改革でクラブが急成長 ～どんぐりクラブ屋台村(広島県山県郡北広島町)～

活動は順調であるにも関わらず、設立から10年を迎える「どんぐりクラブ屋台村」では、運営側の業務が増えたことで新規事業に着手できない。というジレンマを抱えていました。その状況を変化させたのが大胆な運営改革による業務分担&効率化。近隣クラブも注目するその取り組みをクローズアップします。

♂ キーポイント

- ★ 大胆な人事改革で業務の効率がアップ
- ★ スタッフの負担軽減には業務内容を洗い出す
- ★ 3つの「専門部」を新設し、特に負担が大きい業務に対応

1 クラブ概要

どんぐりクラブ屋台村が位置する北広島町豊平地域のスポーツ環境は、地域に根ざしたスポーツ活動が少なく、主に学校区が中心となっていたため、卒業後はスポーツに接する機会が減少してしまう状況にありました。そのほかにも活動する人数が足りない、専門の指導者がいないなどの理由から自分にあった種目を選択できないなどの問題も抱えていました。

学校部活動の在り方についても検討していくなかで「だれもが、いつでも、どこでも、生涯を通じて健康・スポーツ活動に親しむことができる環境」を地域で作り出すきっかけの一つが総合型クラブの設立でした。その後、平成12年度から文部科学省のモデル事業として行政主導で設立準備がスタートし、平成15年3月に「どんぐりクラブ屋台村」が設立されました。

高齢過疎の地域のため、クラブではスポーツに限らず幅広い活動を展開しています。「屋台村」の名のとおりイベントへのバザー出店から、「よもぎ蒸し」、「腸セラピー」などの女性向けのプログラムまで、仲間と健康的に触れ合えるコミュニティ作りを目指した取り組みを行っています。

2 大胆な人事改革で業務の効率がアップ

クラブの事業が順調に増える一方で、運営側は業務が煩雑になりスタッフや理事の負担が増加していました。また、クラブ専任ではない理事が多く理事会を開催しても大半が出席できないことから、一部の理事の負担が大きくなり、新規事業を行いたくても実施できないなどの問題もありました。

このような状況を打破するため、昨年度、業務内容の見直しを行いました。理事を21名から7名(内2名は事務局スタッフ)にした上で理事の交代も実施、その結果、理事7名の平均年齢は35才となり、クラブがさらなる進化を遂げるための体制を構築しました。月1回の理事会のスケジュールリングもスムーズに行えるなど、業務の効率化にもつながっています。新規事業に関する意見交換も活発になり、実行スピードも向上したことで、今年度はパソコン教室やバブルサッカー大会を始め、捨ったどんぐりの重さに応じて屋台村通貨に交換するといった独自の新規イベント開催にもつながっています。



上半身にやわらかいボールをかぶって行うバブルサッカー

3 業務内容を洗い出し、合理化につなげる

事務局スタッフの負担を軽減するため、まずは、クラブ内業務の内容を明確にしました。その後、特に負担が大きい業務について3つの「専門部」を新設。新たに作られた各専門部の役割が下記のとおりです。

【事業部】 イベント・大会に関する業務全般

【広報部】 クラブ便りの毎月配布、年間カレンダー作成

【バザー部】 地域イベントへの出店企画立案、当日の販売業務

それぞれ1名の部長と、数名のボランティアスタッフで構成されています。ボランティアスタッフは、クラブをよく手伝ってくれている会員や地域住民の方への声掛けによりお願いしていますが、業務が明確なことで、みなさん安心して引き受けてくださるといった利点もあります。

4 今後の展望

クラブのオリジナルグッズの作成や、今までクラブに縁がなかった人にも興味を持っていただけるようなイベントや教室を新たに開催していきたいと思っています。地域の核となるようなコミュニティクラブとなるよう、さらに充実した活動を目指します。

(広島県クラブアドバイザー 茂川真二)



屋台村の事務所は、季節に合わせた装飾をスタッフ自身が楽しみ、誰もが気軽に立ち寄りやすい雰囲気になっている

クラブプロフィール

設立：平成15年3月9日

地域：広島県山県郡北広島町豊平地域

運営：会員数353名(平成26年7月時点)

※対象地域の豊平中学生は全員が会員登録

予算規模：1千6百万円(平成26年度予算)

住所：〒731-1712 広島県山県郡北広島町都志見2609

TEL/FAX：0826-84-1234

E-mail：yatai@pretty.ne.jp HP：http://yataimura.net/

クラブの運営業務を分担しよう

県内クラブ唯一の役職「会員管理担当」 ～さらスポーツクラブ(香川県高松市)～

クラブ役員13名のうち半数以上が何らかの障がいを持つ「さらスポーツクラブ」では、特定のスタッフに業務の負担が偏りすぎないように工夫が必要となります。どのような業務分担でスムーズなクラブ運営を実現しているのか。その取り組みをご紹介します。

🔑 キーポイント

- ★ 県内クラブで唯一の「会員管理担当」
- ★ 各会員に救急医療情報シートの記入を依頼
- ★ 助けあいが必要だからこそその役割分担

1 クラブ概要

さらスポーツクラブ(香川県高松市)は、平成21年に県内で21番目に設立された総合型クラブです。県内の障がい者スポーツ団体同士の情報交換をきっかけに、その関係者が中心となり、賛同者を募って設立されました。「こころのバリアフリー」をモットーに、障がい者と健常者の壁をなくし、すべての人が楽しくスポーツできる環境づくりを目指しています。

現在は、かがわ総合リハビリテーションセンターに事務局を置き、ふうせんバレーサークルや手話サークルなどのほか、県内の児童養護施設の児童を対象とした日帰りキャンプ「未来ある子ども達にゆめと希望の贈り物事業」の実施や、高松市知的障がい者青年教室への講師派遣など、クラブ外への社会貢献活動も積極的に行っています。

2 県内クラブ唯一の「会員管理担当」

クラブの役職<表1>は、理事21名の中から各担当の13名が選出されます。中でも当クラブならではの業務を担うのが、県内クラブで唯一の役職である会員管理担当です。

クラブには運営を行うスタッフ、会員に障がいを持つ方が複数名います。そのため、それぞれが身体や知的など、どのような障がいを持ち、いざという時にどのような対処をすればいいのか、徹底したリスクマネジメントが求められます。設立当初は、それぞれの会員の「発作原因・診断名・対応方法・治療薬などの携帯物・携帯場所」などの情報を会員管理担当がデータベースに入力し、イベントや教室の際には印刷して携帯していました。現在は、年齢を問わずすべての会員に障がいの有無や対処法、また、持病に関する情報などを記載する救急医療情報シートの記入を依頼し、会員証とともに携帯するよう呼びかけています。幸いシートの情報を必要とするような非常事態になったことはありませんが、イベントに同行する看護師からは「いざという時に助けになる」と評価されています。

そのほか、クラブは設立以降toto助成事業からの助成は一度も受けていません。助成金担当は、イベントごとに適した助成事業を探し、申請書から報告書の作成までを行います。本年度は2つの助成事業の支援を得てイベントなどの運営を行いました。また、広報担当による年3回の「さら新聞」の発行などもあります。

各役職の任期は「1年で仕事に慣れ、1年でしっかり仕事をこなせるようになり、もう1年で引き継ぎを」ということで3年間(再任可能)にしています。

<表1> ※平成26年9月時点

代表	1名
副代表	2名
クラブマネジャー	1名
事務局長	1名
会計担当	1名
助成金担当	2名
広報担当	2名
会員管理担当	1名
内部監査、外部監査	各1名

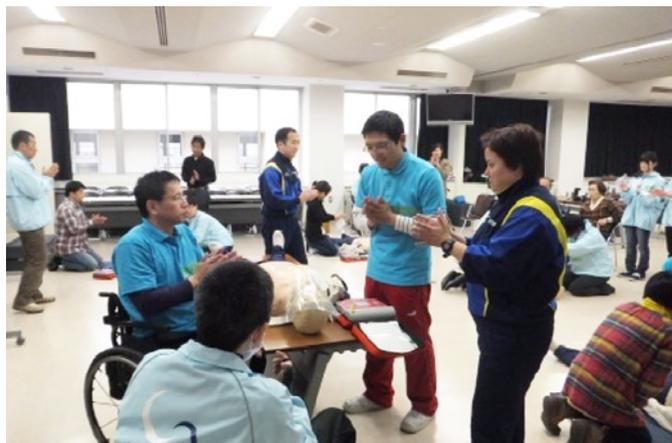
1 救急医療情報シートの詳細はこちら ⇒ <http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabushien/seat.pdf>

3 助けあいが必要だからこそその役割分担

クラブは、役員13名のうち半数以上が何らかの障がいを持っています。クラブマネージャーもその一人です。だからこそ、役員1人当たりの負担を真剣に考えているクラブであるといえます。

教室やサークル活動、イベント実施の際は、事業ごとに実行委員長及び担当者を数名配置する、また、月1回行われる理事会は議事録を作成し、すべてのクラブ関係者が読めるように管理することで欠席者への報告書の送付はしない、など些細なことかもしれませんが、こういったことを積み重ねてクラブマネージャーの負担を軽減しています。1人で何でもできるスーパーマンはいませんが、意欲の高い人が集まり、責任を持って業務を行う、人の力や可能性を実感するクラブです。

「活動する中で『口に出し続けていれば夢は叶う』と実感しました」そうクラブマネージャーは語ります。それはクラブの運営は自分1人だけではなく、クラブに関わるみんなが役割の分担や効率化を真剣に考え実践できているから成り立つ、そう感じているからこそその言葉ではないかと思えます。



スタッフ同士が助けあえる業務分担で、3つの教室事業やイベントなどを実施している

4 今後の展望

今後は、理事や会員が気軽に集まって話せるクラブハウス建設が一番の目標です。理想は、簡単な教室ができるホールと会議室があり、簡易調理場付き、バリアフリーのトイレと駐車場もある施設。借家ではない、クラブ占有のクラブハウスを目指します。そして、クラブの組織基盤をより固め、社会的信用を得るためにも法人格の取得を検討しています。

(香川県クラブアドバイザー 山家春香)

クラブプロフィール

設 立：平成21年4月12日
 住 所：香川県高松市田村町1114番地
 かがわ総合リハビリテーションセンター内
 会 員：71名
 予算規模：約150万円
 TEL：087-813-5016 FAX：087-898-4491
 E-mail：sara.takamatu@nifty.com

クラブの運営業務を分担しよう

役割の明確化でスタッフの当事者意識が向上

～しまもとバンブークラブ(大阪府三島郡島本町)～

平成19年に、新・旧住民の交流場所の提供を目的に活動がスタートした「しまもとバンブークラブ」。約30名のメンバーで始まった設立委員会では、大所帯ならではの問題もありました。それらの問題を解決した“部会制”の存在とは？ また、スタッフの当事者意識を向上させた役割分担の経緯についてお話を伺いました。

🔑 キーポイント

- ★ 部会制を設け、一人ひとりに発言の場を作り出す
- ★ 効率化 < コミュニケーション
- ★ 偏りのない役割分担がクラブ発展につながる
- ★ 業務の明確化が当事者意識を高める

1 クラブ概要

住宅地開発が進んでいた島本町は昭和60年代ごろより、昔からその地域に住む住民と新しく移り住んできた新住民の間で、「どのようにして新しい地域コミュニティを形成するのか」が継続した課題となっていました。その対策の一環で取り込まれたのが「総合型クラブづくり＝まちづくり」とした町教育委員会主導の総合型クラブの設立です。

まず始めに、スポーツ関係者に限らずさまざまな背景を持つメンバーにより「町立体育館懇話会」が設立され、町唯一の体育施設である町立体育館の更なる有効活用方法を中心に、総合型クラブ設立を含む町のスポーツ振興について議論が交わされました。その後、日本体育協会の育成指定クラブ委託事業を受け、設立準備委員会を経て平成19年2月「しまもとバンブークラブ」が誕生しました。

クラブが活動する上での非常に重要な指針となっているキャッチフレーズは「温かいひとづくり、まちづくり、ふるさとづくり」です。設立当初から変わらない、この合言葉をもとに設立から8年を迎えた今、次のステージへ進むための法人化に向けた取り組みを会員、スタッフ、事務局が一丸となり進めています。

2 当事者意識を育てる部会制の存在

クラブは、懇話会、設立準備委員会を経て、約4年の歳月をかけてクラブ設立に至りました。30名超のメンバーでの会議は、毎回熱い議論が交わされる一方で、大所帯であるからこそ生まれた課題もありました。設立準備に向け盛り上がる中心メンバーと、そのほかのメンバーとの温度差が徐々に浮き彫りになっていったのです。これが後に部会制が確立するきっかけとなります。このときの関係者は当時は振り返り、中心のメンバー以外に疎外感を抱かせてしまう雰囲気は、確かに少なからずあったと話します。この状況を打開する仕組みとして確立したのが、コミュニケーション強化のための部会制です。大人数の準備委員会より人員削減して行われた部会では、一人ひとりに発言の場を作り出すことができました。また、その意見を準備委員会で共有することで各自の当事者意識も向上し、誰もが理念やビジョンを語れるクラブがスタートできたのです。

3 効率化に勝るコミュニケーションの重要性

クラブを語る上で重要なのが「会議回数」です。準備期間中に正式な会議を60回、それ以外にも地域で人が集えばクラブづくりについて語り合うなど、それぞれが意見を主張し、積極的なコミュニケーションが行われていました。しかし、設立から5年を迎え、クラブ事業が安定してきたころ、経験や慣れにともなった簡素

化がクラブの特長である「主張の場」に影を落とすようになります。

クラブ運営は、専門部会、運営委員会、三役・部会長会の3つの組織から構成されていました。専門部会で詳細な議論を行い、三役・部会長会にて部会間の調整、運営委員会で決定するという仕組みです。しかし、効率化や負担軽減のため、まず三役・部会長会議が削減されました。一時的に、全体の負担が減ったように感じましたが、部会間の調整の場がなくなったことで、それぞれの主張が次第に強くなり意見がまとまらない、という悪循環を生んでしまいました。

意見交換もなく、ただ時間が過ぎていく。そのような会議を経験すると“長時間の会議は無意味”“会議数が減ると負担も減る”と誤ってしまいます。しかし、クラブの過去を振り返ると、運営面が安定してもコミュニケーションの大切さに勝るものはなく「主張の場があることに意味がある」ことを実感します。その反省から、設立8年目の今、原点に戻り意思疎通の重要性や部会、作業内容の見直しに取り組んでいます。



約30名のメンバーで行われる運営委員会の様子

4 将来を見据えた役割分担を推進

クラブでは昨年、経験豊富な一部の人間に業務の負担が偏ってしまう現状を改善するため、作業内容の洗い出しから始め、半年間をかけて業務の見直しを行いました。業務効率を上げるため経験者に頼るのは仕方ない場合もありますが、たとえ時間がかかっても偏りのない役割分担の確立しておくことこそが将来的なクラブの発展につながると考えたからです。ここにも部会制を発足したときの“一人一人に役割と発言の場”というクラブのポリシーが影響しています。また、業務を明確にすることで、各担当者の当事者意識を高めるという効果もありました。時間がかかったとしても、各々が高いモチベーションでクラブに関わるのが「温かいひとづくり、まちづくり、ふるさとづくり」につながっている気がします。



フラダンスの発表会(写真左)や、体力測定会(写真右)など、さまざまな活動が行われている

5 今後の展望

現在クラブでは、法人化に向けたクラブの見つめ直しと将来のクラブ像を共有し積み上げる作業を行っています。設立時と同じくらいの時間をかけ「なぜ、法人格が必要か」「法人化することで、どうなるのか」を議論し進めています。多くの先行事例がある中でも常に我がクラブの理念やビジョンに立ち返り、地域のクラブを作り上げています。

(大阪府 クラブアドバイザー 祐末ひとみ)

クラブプロフィール

設 立：平成19年9月25日

地 域：大阪府三島郡島本町

運 営：会員数403名(平成26年7月現在)

予算規模：721万円(平成25年度)

連絡先：〒618-0022 大阪府三島郡島本町桜井2-25-1
島本町立第三小学校

TEL/FAX：075-202-4533

E-mail：mail@shimamotobamboo.net

HP：http://www.shimamotobamboo.net/

専従スタッフを継続して確保しているクラブ

“まちの声”に反応できるクラブスタッフを目指す ～ NPO法人まつぞのスポーツクラブ(岩手県盛岡市)～

クラブ設立当初から専従のクラブマネジャーを確保している「まつぞのスポーツクラブ」。現在は2名の専従スタッフが在籍していますが、過去には雇用の継続が困難な時期もありました。地域に根ざした人材雇用を通じた地域密着型クラブとして、まちづくりを盛り上げるクラブの取り組みをご紹介します。

♂ キーポイント

- ★ 地域密着の雇用と専従スタッフ
- ★ 退任を見据え1年間かけて人材育成を行う
- ★ 「そのとき求められること」に迅速に対応

1 クラブ概要

NPO法人まつぞのスポーツクラブは、平成15年に盛岡市松園地区におけるスポーツ活動の場を広げ、スポーツを通して地域の方々の自立的な社会参加を促進し、地域住民とともに「元気で活気あふれるまちづくり」の一翼を担うことを目指して設立しました。

クラブ創立10周年を記念した平成25年2月のイベントでは、北京オリンピック陸上男子400mリレーの銅メダリストである朝原宣治さんの講演会を開催し、約200名の地域住民が参加しました。また、平成25年度から、スポーツに限らず各分野で松園地区が目指す姿を定めた地域づくりとして盛岡市が取り組む「地域協働によるまちづくり事業」の事務局としても活動し、地域の各種団体と連携し事業を進めています。これまでの活動が評価され、平成25年11月に岩手県教育表彰、平成26年10月には生涯スポーツ優良団体表彰(文部科学省)を受賞しています。

2 地域密着の雇用と専従スタッフ

クラブでは設立当初からクラブマネジャーを設置していましたが、2年目からはtoto助成金を受けながらも有償で専任のクラブマネジャーを雇用しています。初代のクラブマネジャーは、クラブ設立準備の中心的存在であった地元の体育指導員(現スポーツ推進委員)の方でしたが、当初は手探り状態の中でのクラブ運営でした。

平成18年には地域のスポーツ施設の指定管理者に採択されたことを機に、さらに指導担当の専従スタッフ1名を確保し、新たな事業にも取り組みましたが、思うように収入があがらず、雇用については厳しい局面を迎えていました。クラブ運営の過渡期にあったこのとき、クラブマネジャーに対し、県から広域スポーツセンター専任指導員への就任要請があったため、平成20年からの3年間はクラブマネジャーと兼任する形でクラブ運営を継続しました。

平成24年度にtoto助成事業を活用したことで再びクラブ専任のクラブマネジャーの体制に戻り、事務



クラブマネジャーの板垣敬重氏(左)と、アシスタントマネジャーの及川美香氏(右)

局は新たに雇用したアシスタントマネジャーとの2名体制での運営を始めました。アシスタントマネジャーには、その後のクラブマネジャーの退任や交代も見据えて、また、クラブ設立当初から理事として運営に携わり、クラブや地域について熟知された方を選びました。

そして平成25年度、初代クラブマネジャーの退任に向け、まずクラブマネジャーとアシスタントマネジャーの役職を入れ替えるなど、1年間かけて人材育成を行いました。退任後の平成26年度からは、新たなアシスタントマネジャーを雇用して活動を始めています。アシスタントマネジャーの雇用の際は、地域情報誌や職業安定所にて募集するなど、地域に根ざした人材雇用を目指しました。実際に採用された新アシスタントマネジャーは、元小学校教諭ということもあり、これまでとは違った視点での事業の展開を期待しています。

3 「そのとき求められること」に迅速に対応

常時スタッフがいることで、いつでも会員や地域の方と顔を合わせて気軽に話しができるとともに、問い合わせにも迅速に対応することができます。平成23年の東日本大震災の後には、地域の被災地支援物資の窓口となって活動するなど、時事に即した新たな役割も生まれています。

4 今後の展望

これまで以上に地域に密着したクラブづくりを目指していきたくと思っています。常に新たなニーズに応じた事業を検討するとともに、地域に必要な事業に積極的に取り組んでいきたくと思っています。これまで以上に、地域住民や地域外の方からも『松園、いいよね!』*とってもらえる地域にしていきたいと考えています。

*「地域協働によるまちづくり事業」による松園地区の地域づくりの合言葉

(岩手県クラブアドバイザー 伊藤啓太)



人気のノルディックウォーキングのイベント(写真左)や乳児クラスの子育てふれあい倶楽部(写真右)の様子

クラブプロフィール

設 立：平成15年5月18日
 住 所：〒020-0105 岩手県盛岡市北松園1-9-2
 会 員：250名(平成26年10月時点)
 予算規模：約2,000万円(平成25年度)
 TEL/FAX：019-663-9280
 E-mail：head@matsuspo.net
 HP：http://matsuspo.net/

専従スタッフを継続して確保しているクラブ

子育てママが非常勤スタッフとして活躍 ～みなと小松島スポーツクラブ(徳島県小松島市)～

非常勤スタッフの採用により地域における雇用機会の拡大と、クラブ経費削減の両立を実現した「みなと小松島スポーツクラブ」。経験豊かなベテランスタッフの知識と、非常勤である若いスタッフのチャレンジ精神やアイデア、その両輪を生かしたクラブ運営をご紹介します。

♂ キーポイント

- ★ 短時間勤務を条件にしたことで雇用の幅が広がる
- ★ 既成概念に捉われず新しいことにチャレンジする精神を大事に！

1 クラブ概要

みなと小松島スポーツクラブ(徳島県小松島市)は、スポーツ・文化を通じた豊かな人間性と地域コミュニティの活性化、健康で活力ある安全な町づくりの展開を目指し、市体育協会と体育指導委員(現スポーツ推進委員)が中心となり、平成22年に設立、平成26年にNPO法人化したクラブです。

クラブ名の「みなと」の由来は、クラブ理念である「みんな一緒になんでもチャレンジともだちの輪を広げよう安全な町づくりを目指して」の3つの頭文字と、港町である小松島のイメージから付けられました。小松島市立体育館を活動の拠点として、年間14種目の教室を定期的で開催するとともに、地域住民の交流を目的とした大会を随時開催しています。



マスコットキャラクター「みなとくん」

2 非常勤スタッフ募集で雇用の幅を拡大

設立準備期間からクラブ設立当初までは、クラブマネージャー1名、事務局員2名の体制で活動していました。その後、5名体制の時期もありましたが、当初のクラブマネージャーや事務局員の辞任が重なり、高年齢のクラブマネージャー2名になったとき、クラブの継続や発展、また、若い世代の意見を取り入れたいとの思いで新しくスタッフを募集することにしました。短時間での勤務も可能という条件で、クラブ通信にて事務局員を募集したところ、会員の保護者であり、かつ子育て中の方を2名採用することができました。非常勤としての採用ですが、結果として、無理することなく勤務できる条件で雇用の幅が広がったこと、そして、クラブ側としても人件費の予算が軽減できたことは、お互いにとってよかったことだと考えています。

また、クラブを末永く繁栄させるためには、継続力の向上と基盤強化が必要であると考えます。新しく採用したスタッフには、教室運営や事務処理といった日常的なクラブ業務の経験だけでなく既成概念に捉われず新しいことにチャレンジする精神を大事にするよう伝えていきます。そのため、県の公募事業などにも積極的に応募し活用しています。事務局業務は個々が責任感を持って実施できるように分業体制にしていますが、いつ、誰が見てもわかる書類作成や保管方法を心がけ、クラブの業務や運営、事務局での情報を共有するためコミュニケーションを図ることを重視しており、定期的なミーティングも実施しています。

3 今後の展望

今後のスタッフ募集について、「わくわくジュニア教室」など子どもを対象とした教室のお手伝いを積極的にしてくれる保護者であれば年齢や感覚も若く、また、既にクラブの活動に参加してくださっているため、クラブに対する理解もあると考えます。そういった方の中から人材を発掘し、若い世代の意見をクラブに取り入れる工夫をしていきたいと思えます。

クラブでは、今年度から諸費用の値上げに伴って会費を値上げしました。会員の獲得に苦勞していますが、NPO法人格取得を市民にクラブを知ってもらう絶好の機会と捉え、設立当初に実施していたポスティングなどの広報活動、新規教室開講や随時無料体験会を積極的に実施しています。

今後も県や市と連携しながら、事務局を中心とした組織の強化を続け、市民の週1日以上スポーツ・運動実施率(42.5%[※])の向上や会員の増加を目指しながら、安定した運営による着実な活動を継続していきたいと考えています。

※徳島県県民環境部文化スポーツ立県局県民スポーツ課「スポーツ・運動実態調査事業報告書」調べ(平成25年6月)



みなと小松島スポーツクラブでは、子どもから高齢者まで幅広い世代がスポーツを楽しんでいる

クラブプロフィール

設立：平成22年2月27日

NPO取得：平成26年10月10日

住所：〒773-0017 徳島県小松島市立江町字赤石74番地の2
小松島市立体育館内

会員：344名(平成26年10月10日時点)

予算規模：7百5万円(平成26年度)

TEL/FAX：0885-38-1713

E-mail：sports-club@grape.plala.or.jp

HP：http://minatosports.jimdo.com/

専従スタッフを継続して確保しているクラブ

地元で発掘した人材がクラブ、そして地域をひとつにする ～NPO法人美咲町柵原星の里スポレク倶楽部(岡山県久米郡美咲町)～

美しい星空を持つ岡山県の山間部で活動を続ける「美咲町柵原星の里スポレク倶楽部」。現在のクラブ理念である「夢・ときめき・感動」は、クラブをサポートする町民から発せられた言葉でした。専従スタッフとボランティアスタッフの協力によるクラブの取り組みに注目です。

♂ キーポイント

- ★ 地域に埋もれている人材を発掘
- ★ サポーターから意見や改善点を伺い一体感を醸成
- ★ 「時間がない」、「人手が足りない」から「やろう」という気持ちを大切に

1 クラブ概要

美咲町柵原星の里スポレク倶楽部は、平成18年6月に設立され、その後、NPO法人として「町名」をクラブ名に加えた上で、平成25年4月に新たにスタートした総合型クラブです。クラブ名の「星の里」は、クラブが位置する岡山県中部の山間部、柵原地区で見られる星空が、全国で9番目に美しいと言われていることが由来しています。

クラブの設立へ向けた約2年間の準備期間の間には、隣接する2町と合併し、町名が「柵原町」から「美咲町」へと変わるなど、さまざまな変化がありました。当時の体育指導委員や体育協会が中心となり、手を伸ばせば届くような距離にあった地域コミュニティが、その枠を広げることで元気を失わないようにしたいとの思いで、既存団体や町民にアンケートをとるなど総合型クラブの立ち上げにまい進し、平成18年の設立に至りました。

現在は、クラブ理念である「夢・ときめき・感動」を合い言葉に、地域になくってはならないクラブとなるための活動を続けています。

2 地域に埋もれている人材を発掘

事務局長である梶尾洋子さんは、totoのクラブマネジャー設置支援事業を活用し、クラブマネジャーとして仕事をこなしていました。助成を受けつつ活動が軌道に乗り始めた中で地域住民のクラブへの理解も徐々に芽生えてきました。さらなる発展のため、これからのクラブに何が必要なのかを考え始めた矢先に、町民から発せられた言葉が「夢・ときめき・感動」だったのです。現在のクラブ理念であるこの言葉には、自由な発想のクラブの活動が“夢”を創出し、参加した住民に“ときめき”と“感動”を与えられるようにという願いが込められています。この言葉を胸を張って伝えることでクラブに関心を持つ方が増えるのではないかと考え、すぐさまクラブの新たな活動理念として掲げました。

まずは、運営委員が気持ちをひとつにして同じ方向を向き、ことあるごとに理念を説明しクラブのサポート・得意分野での協力をお願いしてきました。また、地元紙や町広報紙の情報をくまなくチェックし、地域の人材に目を光らせ、協力をお願いできそうな人材へは必ず声をかけるなど、地道な努力を続けました。そのような取り組みが、イベントなどの活動を手伝ってくださる人(サポーター)の発掘や、近隣の地域に戻ってきた元Jリーガーに指導者としての協力を取り付けるなどの結果につながっています。

3 継続した人材確保に向けて

サポーターの方には、必ずイベントなどの活動に対する感想や意見、改善点などを伺っています。継続した協力を得るため、感想や問題点を共有し一緒にイベントを成功させたという一体感を持つことを心がけました。また、イベントの成功の裏側にあるサポーターの方の多大なる尽力についてクラブ広報紙でも紹介しました。すると、協力してくださった方から逆に「お手伝いできて楽しかった。また、一緒に活動したい」と言ってもらえるようになり、スタッフとして事業に携わる方が以前より増えるといった好循環が生まれています。クラブのお手伝いにより人と人のつながりを得て、地域に対して「自分にもできること」を考えてくださるきっかけとなり、やがてイベントを運営する専従スタッフとなった方が現在も活躍しています。

4 専従スタッフの確保で起きたクラブの変化

現在、事務所には事務局長とクラブマネジャーの2名の常駐スタッフがあります。しかし、totoの助成がなくなり、継続した確保が厳しい時期もありました。運営委員会での議論の末、常駐スタッフは必要であると認められましたが、大幅に減額した賃金でお願いしているのが現状です。事業やイベントに関わるスタッフの確保についても、当初は毎回心配していました。しかし、今ではそれぞれに実行委員会を設け、委員長が中心になって事業を進めています。専従とはいえ、多くのボランティアスタッフの協力があるからこそできることだと考えています。専従スタッフがいることで業務を分担することができ、新たな提案に対しても「時間がない」「人手が足りない」というマイナスな思考ではなく、やろうという気持ちを大切にできるようになりました。

クラブの活動理念を理解し、協力してくださる専従スタッフがいることでクラブと地域との間の連携・協働を育みつつあります。

5 今後の展望

クラブでは資格を持つ各種指導者の積極的な育成も視野に入れていきます。ひとりの人間、一つのクラブにできることは限られていますが、多くの人が集まることで人数以上の力が発揮できると考えています。地域の人がいつでも集える拠点としての「クラブハウス」の設立を目指し、スタッフの明るい声があふれる、集い・語り・夢あふれるクラブに発展させたいと願っています。

(岡山県クラブアドバイザー 野上幸恵)



スタッフ会議の様子





スタッフ総出で協力し成功に導いているクラブの代表イベントキャンドルコンサート

クラブプロフィール

設 立：平成18年6月30日

住 所：〒708-1533 岡山県久米郡美咲町久木200-8
柵原総合文化センター別館

会 員：303名（平成26年7月時点）

予算規模：1千8百万円（平成25年度）

TEL：0868-62-1165 FAX：0868-62-1197

E-mail：hoshinosato@cyerry.net

HP：http://hoshinosato-sc.sakura.ne.jp/

学校部活動と連携しているクラブ

種目の選択肢が広がり

子どもたちが活躍する場も増えた

～NPO法人しおやユリピースポーツクラブ(栃木県塩谷郡塩谷町)～

県内で一番人口の少ない町である塩谷町に位置する「しおやユリピースポーツクラブ」では、クラブと学校部活動が連携することで子どもたちに部活動を含むスポーツ活動を楽しんでもらうための工夫をしています。地域が抱える問題を助け合いながら解決する、その取り組みをご紹介します。

♂ キーポイント

- ★ 学校へ総合型クラブの活動を提案し連携がスタート

1 クラブ概要

総合型地域スポーツクラブ(以下、クラブ)を、平成22年までに全国各市町村に1つ以上設立することが、文部科学省のスポーツ振興計画において重点施策として示されました。それを受け、平成12年頃から、当時の体育指導委員会(以下、現名称のスポーツ推進委員会)が開催していた関東体育指導委員研究大会や全国体育指導委員研究大会において、クラブについての勉強会が盛んに行われるようになりました。その勉強会をとおして、福島県内にすでに活動しているクラブがあることを聞き、栃木県塩谷町のスポーツ推進委員会で視察をしたことが、クラブ設立へ向けた具体的なきっかけとなっています。

その後、クラブの必要性についての協議を重ね、教育長の快諾も得た上で平成16年4月に自治会役員、体育協会、スポーツ推進委員、学校関係者などが集まった56名のメンバーによる調査(検討)委員会を発足しています。平成17年3月に、調査委員会から設立準備委員会へと切り替え、約1年間の日本体育協会育成推進事業の指定を経て、平成18年9月28日に「しおやユリピースポーツクラブ」が誕生しました。

2 種目の選択肢が増えるという利点を生かす

塩谷町は栃木県中央部の北側に位置し、約160km²ある面積のうち約60%が山林原野、人口は約1万2,300人(平成26年10月時点)という県内で一番人口が少ない町です。

近年の人口減少に伴い小・中学校の統合が相次ぎ、その度に、通学が不便になる児童が増えていきました。町ではスクールバスを用意して対応しましたが、運行時間が決まっており、中学校部活動の時間が取れなくなってしまうといった新たな問題も生まれていました。

そんな中、学校側から相談を受けていたクラブの現理事長である大島勝栄氏が発した「総合型クラブで活動すればいい」の一言が、学校部活動とクラブの連携の足がかりとなったのです。以降、当時の校長が体育指導委員を経験していたことも功を奏し、とんとん拍子に話がまとまりました。

実際には、学校部活動は18時で終了し、生徒は18時半までの間に軽食などを摂りながら休憩。その後、18時半～20時半までの2時間、クラブの活動内で練習をして、親御さんのお迎えにより帰宅するという活動を行っています。十分な活動時間を取れるため、生徒たちも存分に各種目を楽しむことができます。また、指導者については、部活動の顧問の先生にクラブに会員登録していただき、教員としてだけでなく「地域の指導者」として関わっていただいています。

さらに、クラブとの連携により学校部活動にはない剣道、柔道、器械体操といった種目を選べるようになり、児童・生徒たちの選択肢の幅が広がるという利点も生まれました。クラブにしかない種目を小学生のときから始めた児童・生徒の中には、中学校へ進学後も競技を続け、学校教員による引率のもと大会へ出場している方もいます。人口の少ない町だからこそ、地域が抱える問題を解決するためクラブと学校が助け合い、自然と連携の道を行ってきたクラブなのだと思います。



クラブで開催する小・中合同のバスケットボール活動(左)や卓球活動(右)の様子

3 今後の展望

クラブでは、平成21年度から平成25年度までtoto助成金事業である「自立支援・クラブマネジャー設置支援事業」の支援を受けていました。助成金終了後は、安定した運営を見据えて、大島理事長が中心となり平成26年5月20日にNPO法人格を取得しています。

今後は、地域及び行政に対してさらにクラブの認知度を上げていくとともに、クラブが塩谷町の豊かなコミュニティの創造の中心となり、地域になくてはならないクラブになれるよう日々努力していきたいと考えています。

(栃木県クラブアドバイザー 宮本栄子)

クラブプロフィール

設立：平成18年9月28日

住所：〒329-2221 栃木県塩谷郡塩谷町玉生^{たまにゅう}681
玉生コミュニティセンター内

会員：310名(平成26年10月時点)

予算規模：300万円(平成26年度)

TEL：0287-45-0050 FAX：0287-45-0067

E-mail：yuripysportsclub@gmail.com

学校部活動と連携しているクラブ

専門性の高い指導で競技をより楽しく学ぶ ～ NPO法人宮城スポーツクラブ(群馬県前橋市)～

クラブと学校部活動が連携する利点のひとつには、専門知識のある指導者から質の高い指導を受けられることがあげられます。群馬県の「宮城スポーツクラブ」では、子どもたちがスポーツとして、そして、競技としても部活動を楽しめるよう、外部指導者によるサポートを取り入れています。

♂ キーポイント

★ 学校側から外部指導者としての
依頼を受け連携がスタート

1 クラブ概要

クラブが位置する群馬県前橋市では、充実したスポーツ施設がありながらも、地域住民の多くがその施設を一度も利用していないという実情を抱えていました。そのため、総合型クラブを設立することで、今までスポーツに親しむことの少なかった人たちが、気軽にスポーツを楽しめる機会を作り、健康増進と世代を超えた交流の場を形成したいと考えたのです。

まず始めに、宮城体育協会関係者など、クラブ設立の趣旨に賛同された人たちを中心に設立準備委員と運営委員を組織し、その後「宮城スポーツクラブ」が誕生しました。

老若男女を問わず、いつでも、だれでも、いつまでも、数多くのスポーツに親しむことができる環境を整え、スポーツ振興と地域社会における健康で明るく豊かな生活の実現に貢献することをクラブ理念に活動しています。

現在、クラブでは運営委員がそれぞれに得意な種目の教室を担当することで、卓球、柔道、インディアカ、ウォーキング、少年サッカー、パドルテニス、ソフトバレー、スポーツチャンバラなどの教室を開催。そのほか、前橋観光コンベンション協会との共催イベントであるウォーキング交流会なども運営しています。

2 連携により専門性の高い指導が実現

昨今の学校部活動においては、児童数の減少による部員不足や、それに伴った部活動種目の減少、指導者不足など、さまざまな問題を抱えています。また、教員が経験したことのない競技に関して専門的な知識や技術指導をするのは困難であり、大変な負担になってしまうことも問題のひとつです。

当クラブが活動している前橋市宮城地区も例外ではありませんでした。クラブでは設立当初より小学生以上を対象にした卓球教室を開催しています。活動場所として、夜間に開放される中学校の体育館を使用していたことから、中学生も大会が間近になるとクラブ会員と一緒に練習をしていましたが、正式に連携するまでには至りませんでした。

しかし、小学生の頃から卓球教室に通っていたクラブの卓球指導者のお子さんが、中学生になり卓球部に入学したことが、クラブと学校部活動の関係が変化するきっかけとなりました。

お子さんが入学し中学校卓球部の試合を多く見るようになったクラブの指導者が、「こうしたら試合に勝てるのではないか」、「このような練習をしたらもっと上手くなれるのではないか」と考えるようになったのです。同時に、試合運びなどに影響のある精神面の指導の重要性も感じていました。

その後、中学校側から外部指導者として指導の依頼を正式に引き受け、連携がスタートしました。そのため、大会の現場でアドバイスすることも可能になり、入賞する生徒が増えるなど、徐々に結果にも現れてきています。

実際に外部指導者として学校部活動に関わる進藤裕昭さんは「ほかにも仕事を抱えているため、仕事が休みの

日や大会開催期間のみなど短時間の指導しかできないことが一番の悩みです。しかし、「子どもたちが上達していく姿を見るのが一番の楽しみです」と話します。クラブでは、これからも学校との連携により子どもたちへのサポートが充実することで、子どもたちが卓球の楽しさを知り生涯スポーツとして卓球を続けてくれることを願っています。



クラブでの卓球教室の様子(左)。大会では、外部指導者もコートサイドに立ち直接指導している(中央、右)

3 今後の展望

クラブは、平成26年9月に群馬県知事より「群馬県生涯スポーツ功労団体」として表彰を受けました。行政から施設の有効な利用方法についても相談されるようになってきたことは、協力や連携が取れつつある証拠だと考えています。これからも、地域住民のみなさまの期待に添えるようなクラブであり続けられるよう、日々努力をしています。

(群馬県クラブアドバイザー 梅澤 光枝)

クラブプロフィール

設 立：平成19年2月25日
 住 所：群馬県前橋市大前田町1551-13
 運 営：会員212名(平成26年10月時点)
 予算規模：165万円(平成26年度予算)
 TEL/FAX：027-283-0784
 E-mail：miyagi_sports_club@mbp.nihty.com

学校部活動と連携しているクラブ

地域の子どもを見守ることのできる安心を生む ～ NPO法人いいの夢クラブ(宮崎県えびの市)～

クラブの卓球教室と学校部活動が連携し、良好な関係を築く「いいの夢クラブ」。連携のきっかけは、競技の指導経験がなかった顧問の負担を軽減するためでしたが、そこには、クラブに通う地域の人々と子どもたちの交流の場が生まれるといったメリットもありました。

♂ キーポイント

- ★ 学校側からクラブへ外部指導者の依頼
- ★ クラブ指導者と部活動顧問がそれぞれ役割を分担する
- ★ 「地域で子どもを見守る」きっかけに

1 クラブ概要

NPO法人いいの夢クラブ(宮崎県えびの市)は、市行政と体育指導委員(現在のスポーツ推進委員)が中心となって市民とともに平成19年に設立したクラブです。

平成24年にはNPO法人格を取得し、多種・多様な生涯スポーツを通して老若男女が楽しみながら健康維持できる機会と、家族の触れ合いや地域の人々の交流の場を提供してきました。

クラブのキャッチフレーズは「応援します!! あなたの元気、地域の元気」です。「だれでも気軽に楽しく参加できるクラブ」、「子どもの健全育成を推進するクラブ」、「地域住民が元気になるクラブ」、「地域の活性化を推進するクラブ」を理念に14種目、6教室・18サークルの活動を展開し、スポーツや文化をとおした豊かな町づくりを目指しています。

2 「ジュニア卓球教室」がつなぐクラブと学校の絆

人気教室のひとつであるジュニア卓球教室では、中学生15名、小学生3名の計18名が活動しています。教室に通う中学生が在籍する飯野中学校の卓球部とクラブが連携するようになったのは5年前でした。現在の部活動の顧問である教員の方に卓球の指導経験がなかったため、学校側からクラブに対して外部指導者としての指導の依頼があったことに始まります。

その後、学校の卓球部に所属する生徒は、月・金曜日の週2回クラブのジュニア卓球教室に通い技術的な指導を受けることになりました。こういった取り組みについて、学校では年度初めの「部活動生保護者会」で、部活動のあり方やクラブでの活動の取り扱いなどを説明し、保護者の理解を得ています。もちろん学校側は、部活動に所属する生徒にクラブ会員となりジュニア卓球教室に通うことを強制していません。しかし、今では部員全員がクラブ会員となり活動しています。



中学校部活動と連携する「ジュニア卓球教室」では、中学生と小学生と一緒に練習し汗を流している

3 連携が「地域で子どもを見守る」きっかけに

あいさつやマナーといった基本的な部分は、学校とクラブの両方で指導を行います。部活動では、顧問と一緒に練習に参加する中で、生徒が練習メニューを考え、生徒主体の活動をしています。クラブとの連携を始めて2～3年が経った頃は、顧問と指導者間で指導方法や大会での選手起用などにおいて多少の意見の相違が生じることもありました。しかし、連絡を密に取り合い、お互いの考えや役割について話し合うことなどにより、意思疎通を図ることができ、現在ではスムーズな連携ができています。

具体的には、技術指導はクラブの指導者が主導となって行い、顧問は主に生徒の生活面やメンタル面をサポートしています。それらをお互いが共有し、理解し、そして尊重することで良好な関係を構築しています。

学校にとっては、クラブとの連携により顧問の業務負担が軽減されるだけでなく、公共施設を利用することで、クラブ会員のみなさんにも生徒を見守っていただけるという安心感が生まれました。中学生が、率先して年下の子もたちの面倒を見るなど、自主性の育成にも役立っていると、クラブスタッフ、顧問、指導者ともに実感しています。

また、クラブ側にも卓球部に所属している生徒を指導することが、その生徒の家族の入会にも繋がり、また、口コミなどでその他の教室入会も増えるなど、多くの利点があります。

4 今後の展望

えびの市は人口2万人程ですが、当クラブを含め市内に3つの総合型クラブ(いずれもNPO法人)があります。設立以来培ってきた3つのクラブ間の支え合いと信頼関係を崩さず、それぞれの地域に根づいた活動を推進することを考えています。

また、クラブは自主運営をしていくための会員の増加や指導者・財源の確保といった課題を克服していかなければなりません。今後は、高校生や20～40歳代の若い世代に、クラブへの興味を持ってもらうため、新しいスポーツなども活動に取り入れる予定です。スポーツ・文化を通して地域の皆さんの集いの場となり、人と人をつなぎ、多くの笑顔に出会えるよう、今よりもっと前向きな活動に取り組もうとしています。

(宮崎県クラブアドバイザー 宮田育俊)

クラブプロフィール

設 立：平成19年3月10日(NPO法人格取得日：平成24年12月6日)
 住 所：〒889-4301 宮崎県えびの市大字原田2176番地 飯野駅前地区体育館内
 会 員：236名(平成26年12月時点)
 予算規模：480万円(平成26年度)
 TEL：080-1775-5332 FAX：0984-27-3399
 E-mail：iinoyume@drive.ocn.ne.jp